

516

357



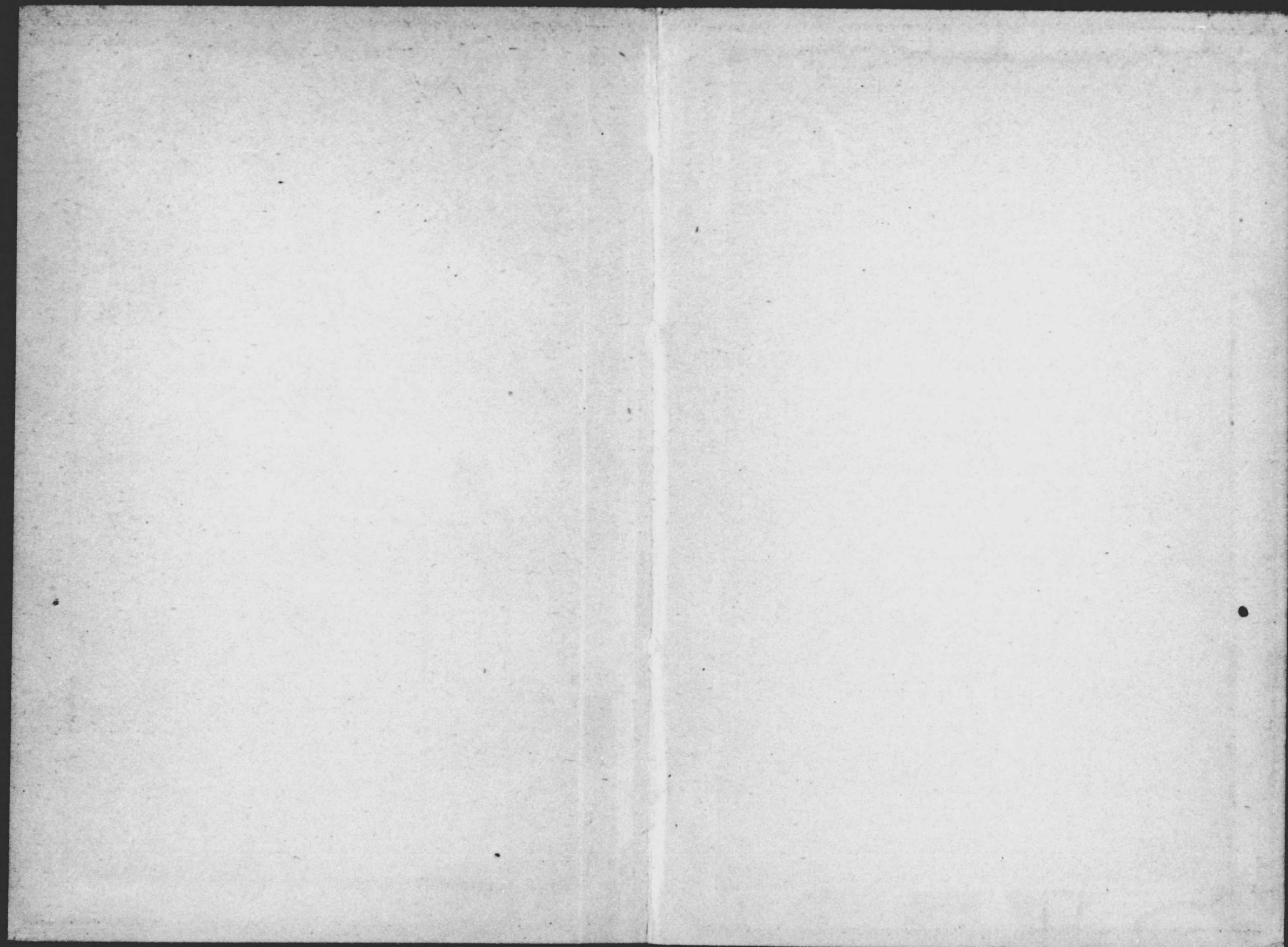
516

557

臺灣現勢要覽

昭和六年版









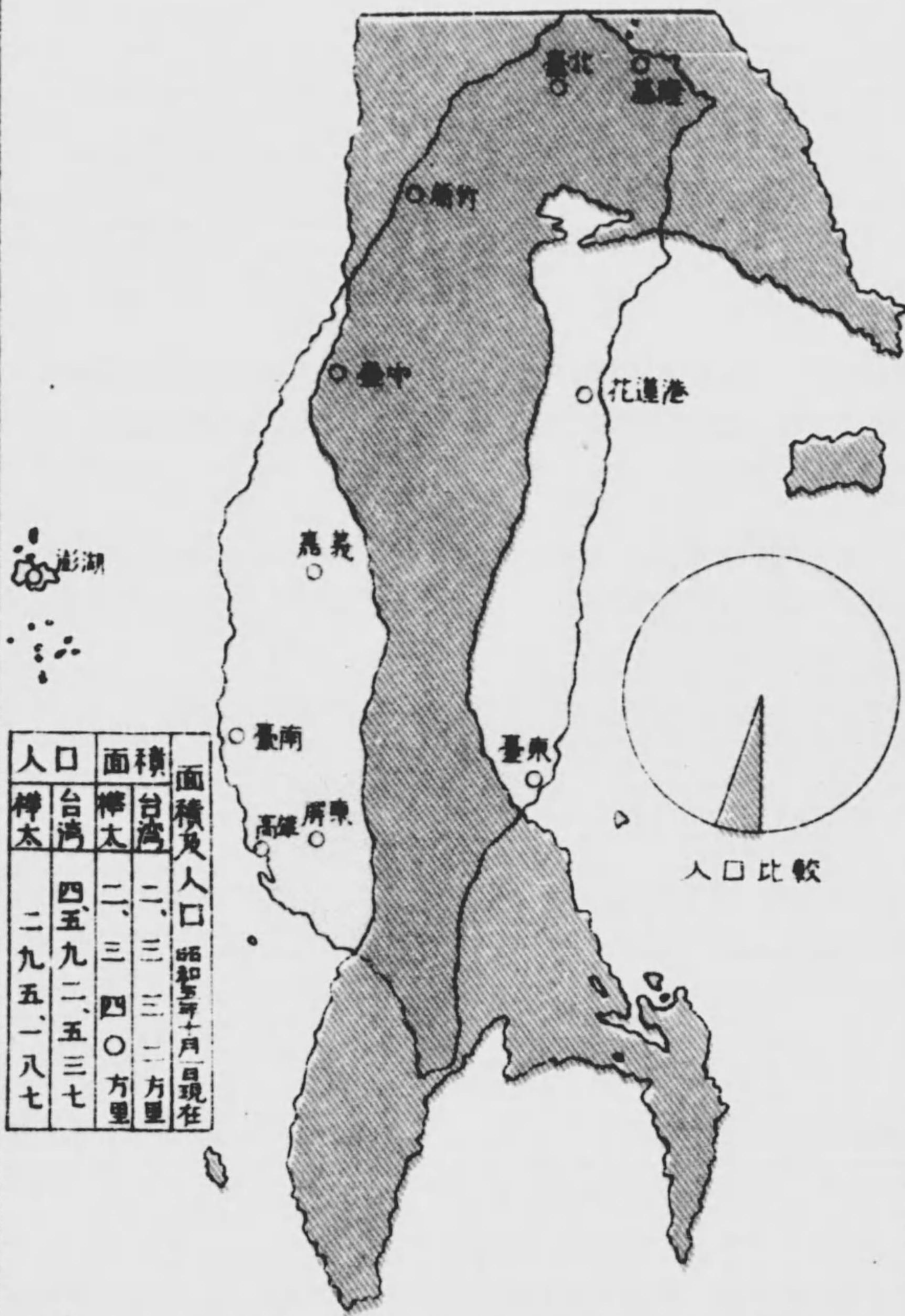
臺灣現勢要覽



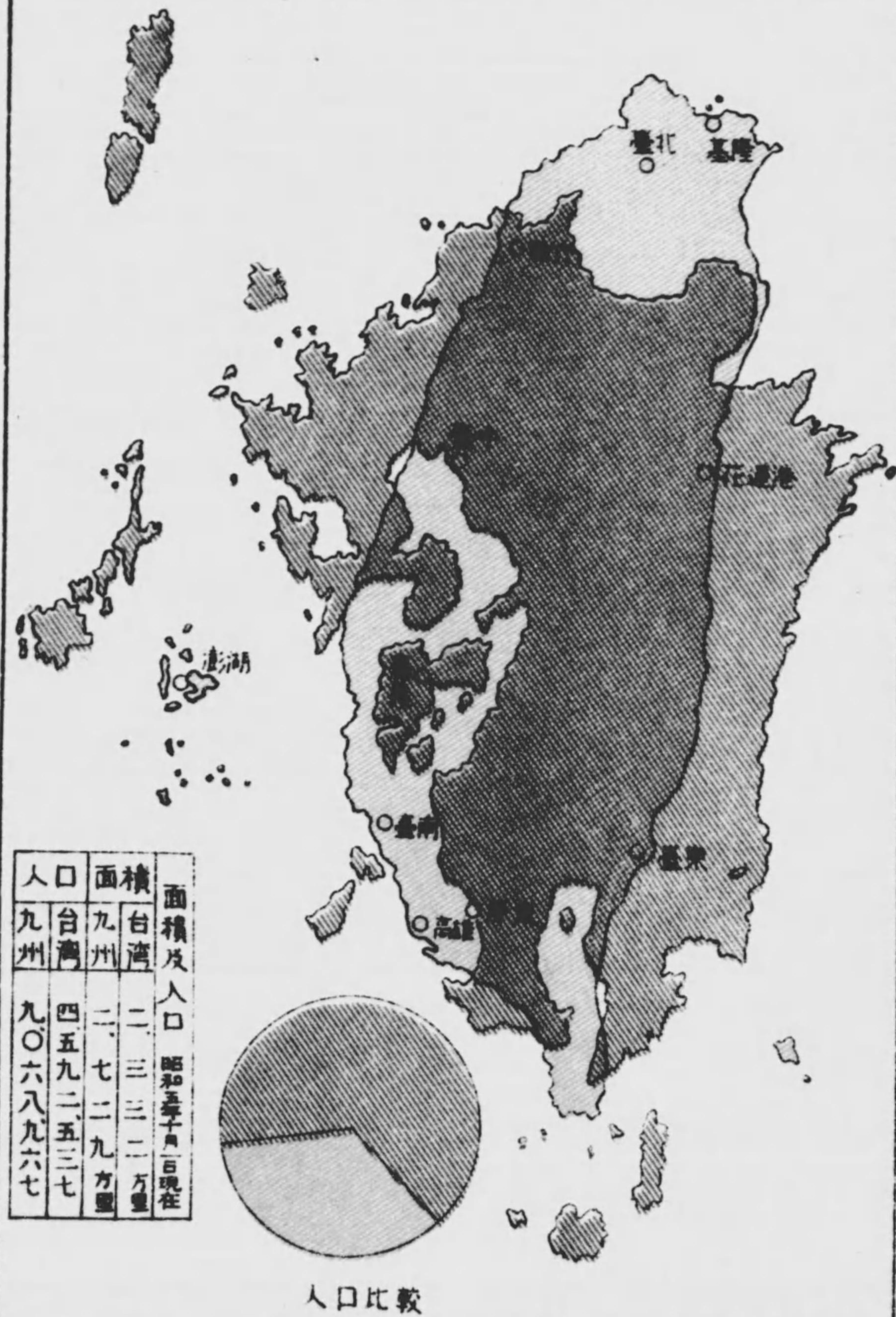
發行所寄贈本



## II 臺灣及樺太面積並人口比較

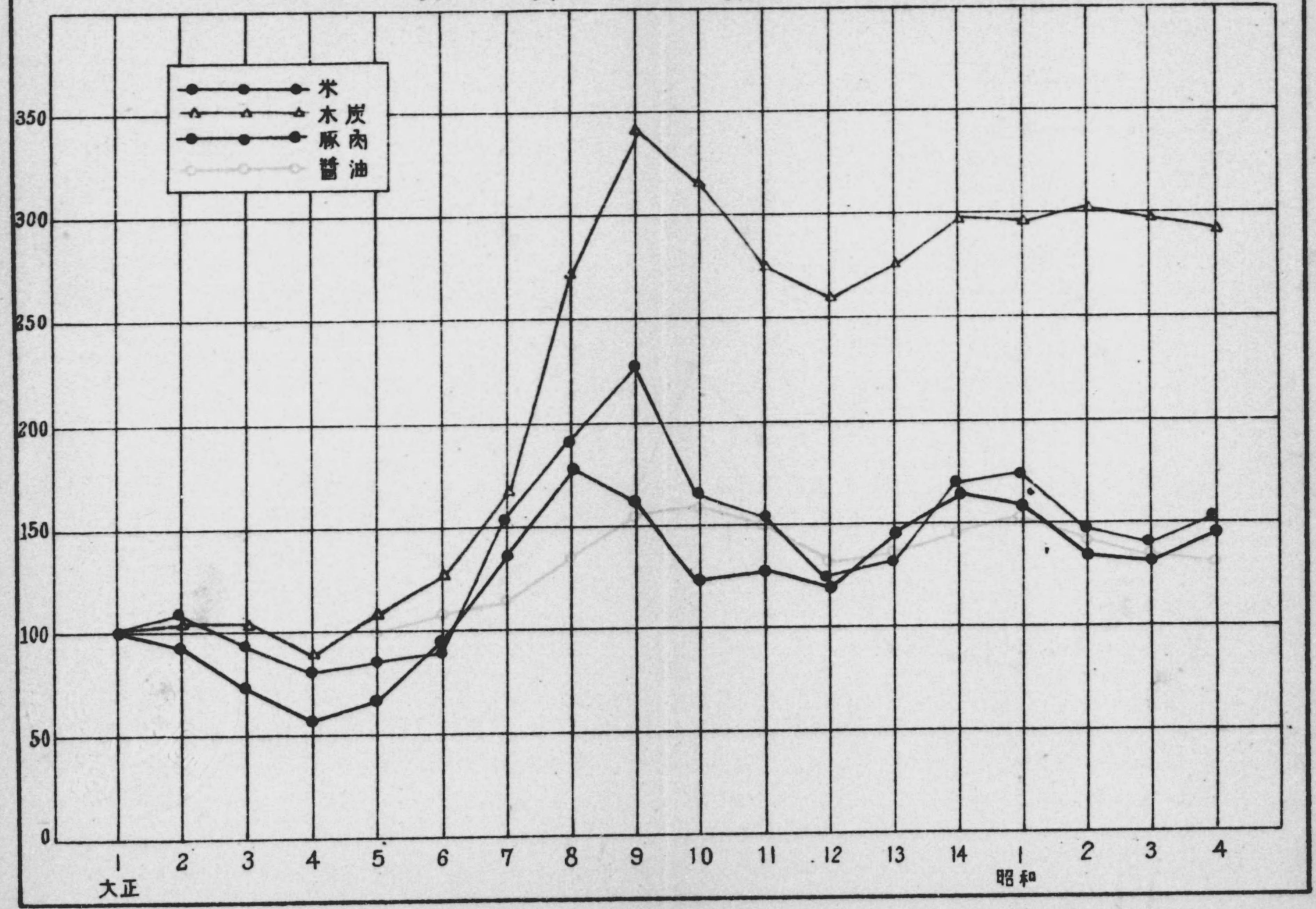


## I 臺灣及九州面積並人口比較





# III 物價指數 (累年比較 自大正元年 至昭和四年)





516-357

## 凡例

- 一 本書は、臺灣の現勢を知るの便に資せんが爲、主要なる事項に就て、その統計的説明を試みたるものなり。
- 二 本書は、昭和四年の事實を基礎としたるも、その最近の統計あるものは努めて之を採り、又昭和四年の事實不明のもの若は特に必要と認めたるものは、昭和四年以前の統計をも採りたり。
- 三 本書は、主として臺灣の現勢を知るを目的とするも、特にその變遷進歩の狀態を説明するの必要ある事項に就ては、累年の統計をも掲げたり。
- 四 本書は、帝國に於ける臺灣の地位を説明するの便に供せんが爲、その必要なる事項に就ては、内地府縣、北海道、朝鮮、樺太、關東州等との比較對照をも試みたり。

昭和六年七月

臺灣總督府



臺灣現勢要覽目次

一	位置	.....	一
二	面積	.....	四
三	山嶽	.....	六
四	河川	.....	一〇
五	土地の利用	.....	三
六	氣溫	.....	三
七	雨量	.....	四
八	人口	.....	七
九	本籍別内地人	.....	二〇
一〇	在外臺灣人	.....	三
一一	在留外國人	.....	三
一二	臺灣語を話す内地人	.....	六
一三	國語を解する本島人	.....	六
一四	婚姻、離婚、出生及死亡	.....	三
一五	出生率	.....	三
一六	死亡率	.....	三
一七	人口の増加	.....	四



一八	番人.....	四
一九	行政區劃.....	四
二〇	州及廳の面積.....	四
二一	州及廳の人口.....	五〇
二二	主要都市.....	五三
二三	農業戶數.....	五七
二四	耕地面積.....	五九
二五	水利.....	六一
二六	農產.....	六二
二七	畜產.....	六五
二八	林產.....	六七
二九	鑛產.....	六九
三〇	水產.....	七一
三一	工業.....	七四
三二	糖業.....	七六
三三	貿易.....	七八
三四	對手國別外國貿易.....	八二
三五	中華民國、香港及南洋貿易.....	八五
三六	重要品別外國貿易.....	八八

圖表

三七	重要品別內地貿易.....	九一
三八	港別貿易.....	九四
三九	財政.....	九六
四〇	專賣.....	九八
四一	銀行.....	一〇一
四二	物價.....	一〇三
四三	教育.....	一〇五
四四	衛生機關.....	一〇九
四五	水道.....	一一一
四六	ペストとマラリア.....	一一三
四七	阿片吸食特許者.....	一一五
四八	鐵道.....	一二七
四九	郵便、電信、電話.....	一二九
五〇	警察官署及職員.....	一三三
五一	最近十八年間の進歩.....	一三五

III II I

臺灣及九州面積並人口比較  
臺灣及樺太面積並人口比較  
物價指數



# 臺灣現勢要覽

## 一 位置

臺灣は帝國の最南端に位し、臺灣本島、澎湖列島及其の他の附屬島嶼より成る。今之を經緯度に釋ぬるに、東徑百十九度十八分より百二十二度六分、北緯二十一度四十五分より二十五度三十八分に至る。北は海上六百二十四哩にして九州の南端鹿兒島に達し、西は臺灣海峡を隔て、近く支那大陸に相接し、東は太平洋を隔て、遠く米大陸に相對し、南はバツシー海峡を隔て、近く比律賓群島に相隣す。

## 一 經度及緯度

島嶼名	經度(東經)	緯度(北緯)	度
臺灣本島	極東	極北	二三・〇六
臺北市基隆市棉花嶼東端	極西	極南	二〇・〇三
臺南州北港郡口湖庄新港西端	極東	極北	二五・五
高雄州恒春郡七星岩南端	極西	極南	二五・三六
臺北市基隆市彭佳嶼北端	極東	極北	一九・四三
澎湖廳湖西庄查母嶼東端	極西	極南	一九・一八
望安庄花嶼西端	極東	極北	二三・一〇
望安庄大嶼南端	極西	極南	二三・〇
白沙庄目斗嶼北端	極東	極北	二三・六
澎湖島	極東	極北	
澎湖列島及其の他の附屬島嶼	極西	極南	



二 距

離

(基隆を基點とする直航里程)

那 鹿 長 門 神 橫 釜 大 福 厦 汕 上 香 麻 海 西 盤

兒

尼

那 島 崎 司 戶 濱 山 連 州 門 頭 海 港 刺 防 貢 谷

(門司經由)  
(鹿兒島沖通過)

(香港經由)

三三四  
三三四  
六三四  
六三三  
七三九  
九八二  
一二七  
七二五  
八五〇  
一五一  
三三六  
三二八  
四一八  
四七九  
七六六  
九六一  
一三〇〇  
一九〇〇

新

嘉

坡

巴 塔 比 亞

一八三四  
二二三〇



二 面積

臺灣の面積は三萬五千九百方秆にして、帝國の總面積六十七萬四千方秆中その五分三厘を占め、九州よりは稍や小さく、樺太と伯仲し、朝鮮に比すれば約その六分の一に當る。尙之を列國の面積に比すれば、瑞西(四萬一千二百九十五方秆)とサルバドル(三萬四千二百二十六方秆)との中間に位す。

	面積	百分比例
總數	六七四、六六六 <sup>方秆</sup>	一〇〇〇
臺灣	三五、九七四	五三
朝鮮	三三〇、七四一	三三七
樺太	三六、〇九〇	五四
北海道	八八、四五四	一三二
内地府縣	二九三、四二八	四三五

本表の外租借地として關東州(州内、鐵道附屬地)の面積三千七百三十九方秆(二百四十二方秆)及南洋委任統治區域の面積二千百四十九方秆(百三十九方里)あり。  
本表は帝國統計年鑑に依る。



三山嶽

臺灣は帝國第一の高山、新高山を始めとし、海拔一萬尺以上のもの四十八座、九千尺級のもの十七座、八千尺級のもの二十四座、七千尺級のもの二十六座を有す。故に七千尺以上の高山の總數は百十五座の多きに達し、所謂「高山國」の名に背かずして熱帯、暖帯、温帯、寒帯等各種の林相を有す。

帝國の全領土を通じて一萬尺以上の高山は總數六十一座を算し、就中臺灣は四十八座を占め、内地は僅かに十三座を有し、北海道、朝鮮、樺太は共に之を缺く。即ち新高山は一萬三千三十五尺を以て第一位を占め、富士山は漸く第六位に在り、内地第二の高山北嶽は僅かに四十一位を占むるに過ぎず。

山名	海面よりの高さ(尺)	順位
新高山	三九五〇	一
次高山	三九三二	二
秀姑巒山	三八三三	三
マボラス山	三八〇六	四
南湖大山	三七九七	五
富士山(内地)	三七七八	六
中央尖山	三七二五	七
關山	三六六七	八

山名	海面よりの高さ(尺)	順位
大水窟山	三六四五	九
奇萊主山北峰	三六〇五	一〇
東郡大山	三六〇五	一一
大雪山	三六〇〇	一二
大霸尖山	三五七三	一三
雲萊主峰	三五六九	一四
奇萊主山	三五四四	一五
卓社大山	三四八八	一六
東社大山	三四六五	一七
合歡山	三三九四	一八
北合歡山	三三九四	一九
東合歡山	三三九四	二〇
南玉山	三三九一	二一
桃山	三三九〇	二二
シンカン山	三三八一	二三
畢祿山	三三七九	二四
丹大山	三三七一	二五
白姑大山	三三四九	二六
奇萊主山南峰	三三三四	二七



南雙頭山	三,三三三	11,000	二八
能高山南峰	三,三三三	11,000	二九
卑南主山	三,三〇五	10,905	三〇
千卓萬山	三,三〇四	10,903	三一
カシバナ山	三,二九四	10,869	三三
郡大	三,二九二	10,865	三三
タロコ大	三,二九二	10,863	三三
小關	三,二五五	10,740	三五
能高	三,二五三	10,732	三五
屏風	三,二三四	10,673	三七
大武	三,二三三	10,665	三八
尖	三,二三三	10,663	三八
バトツノ山	三,三二一	10,630	四〇
北嶽(内地)	三,一九二	10,534	四一
間ヶ嶽(内地)	三,一八九	10,524	四二
鎗ヶ嶽(内地)	三,一七九	10,492	四三
槍ヶ岳(内地)	三,一七八	10,487	四三
ハイノトーナン山	三,一七五	10,478	四四
マビーサン山	三,一六七	10,450	四六

白石山	三,一三八	10,354	四七
ウワノシン山	三,一三三	10,334	四八
赤石山(内地)	三,一一〇	10,296	四九
奥穂高岳(内地)	三,一〇三	10,240	五〇
東俣山(内地)	三,〇九五	10,222	五一
穂高岳(内地)	三,〇九〇	10,197	五二
安東郡山	三,〇八九	10,193	五三
西嶺大山	三,〇七六	10,150	五四
御嶽山(内地)	三,〇六三	10,109	五五
關門山	三,〇五二	10,073	五六
大石公山	三,〇四八	10,060	五七
白根山(内地)	三,〇四七	10,055	五八
小雪山	三,〇四三	10,043	五九
仙丈ヶ嶽(内地)	三,〇三三	10,009	六〇
南嶽(内地)	三,〇三三	10,008	六一

内地の方は第四十七回國勢一斑に依る。



四河川

臺灣は幅員狭く、その最も廣き部分と雖も、僅かに四十里内外に過ぎず、且つ高峰南北に貫通するを以て、河川の發源孰れも近く、舟楫の便は多く望むべからず。流域二十里以上のもの僅かに十を算し、最長の河川たる濁水溪にして漸く四十二里に過ぎず。

濁水溪	一六四九 <sup>軒</sup>	四二〇 <sup>里</sup>
下淡水溪	一五五九	三九七
曾文溪	一三三三	三三七
淡水河	一三〇〇	三三一
大甲溪	一七七八	三〇〇
烏甲溪	一二三三	二八六
八獎溪	一一二一	二八三
秀姑巒溪	八八八	三三六
卑南溪	八四四	二二五
大安溪	八〇五	二〇五

本表は流域二十里以上のものゝみを掲ぐ。



### 五 土地の利用

臺灣の總面積は三百六十二萬七千町步(三百七十萬九千甲)にして、内耕地八十一萬町步(八十三萬甲)、林野二百五十三萬町步(二百五十九萬甲)、其の他二十八萬町步(二十九萬甲)なり。

今之を内地其の他と比較するに、總面積に對する耕地の割合最も大なるは、關東州の五割五分にして、臺灣は二割二分を以て之に亞ぎ、樺太の七厘最も小なり。林野に於ては樺太の八割一分最も大にして、朝鮮の七割三分、北海道、臺灣の七割之に亞ぎ、關東州の二割五分最も小なり。耕地及林野以外の土地の割合最も大なるは内地府縣の二割七分にして朝鮮の七分最も小なり。

實數	實數			百分比例		
	耕地	林野	其他	耕地	林野	其他
臺灣	八二,七五〇	二,五三一,三五三	二八四,二三〇	三三四	六九八	七八
朝鮮	四,九二,二一六	一六,四四,九八二	一四三,九三五	一九七	七三二	七二
樺太	二八,九七九	二,九三三,〇四四	六七七,〇三六	〇七	八〇六	一八七
關東州	二〇六,二〇四	九四,六七二	七六,四九六	五四六	二五一	二〇三
北海道	八八,六八六	六,三〇三,六三三	一,七九六,八〇〇	九二	七〇七	二〇一
内地府縣	五,〇七八七〇	一六,五九四,九三一	七九一,八一二	二七一	五六一	二六八

耕地は昭和四年末現在なり。

林野の臺灣、朝鮮、樺太及關東州(州内、鐵道附屬地)は昭和四年末現在、北海道及内地府縣は同三年末現在なり。  
 朝鮮、樺太、關東州は拓務省統計概要に依る。  
 北海道、内地府縣は農林省統計表に依る。



六氣 温

臺灣は北回歸線に跨り、半は熱帶圏に位するが故に、内地に比すれば夏季長く、冬季短きも、その最高氣温は敢て内地より高しと謂ふにあらず。而も冬季は頗る暖かにして、高山を除いては降雪を見ず、北部の平地に於ては偶々霜を見る事なしとせざるも極て稀なり。今内地其の他と比較するに、累年平均氣温は我臺灣最も高きも、最高極數の氣温に至りては内地其の他の地域に却つて高き處あるを見る事少なからず。即ち臺中の三十九度三分(華氏百二度七分)は新潟の三十九度一分(華氏百二度四分)よりは二分高く、又臺南の三十六度九分(華氏九十八度四分)は京城の三十七度五分(華氏九十九度五分)よりは六分低く、臺北の三十八度六分(華氏百一度五分)は大阪の三十七度六分(華氏九十九度七分)より一度高し。更に恒春の三十五度(華氏九十五度)(釜山、旭川と同じ)及澎湖の三十三度九分(華氏九十三度)(函館と同じ)は大泊・函館を除けば他の何れの地方よりも低し。

臺	昭和四年平均		平均		最高の極		最低の極	
	攝氏	華氏	攝氏	華氏	攝氏	華氏	攝氏	華氏
臺南	23.4	74.1	23.0	73.4	36.9	98.4	24	75.3
臺東	23.4	74.1	23.4	74.1	39.0	102.2	7.4	45.3
恒春	24.2	75.6	24.3	75.7	35.0	95.0	9.5	49.1
澎湖	23.3	73.9	23.1	73.8	39.3	102.7	7.3	45.1
臺中	23.3	73.9	23.1	73.8	39.3	102.7	1.0	30.2
臺北	22.8	73.0	22.6	72.7	38.6	101.5	0.2	32.6
基隆	22.6	72.7	22.6	72.7	37.9	100.2	3.0	37.4
釜山	14.0	57.2	13.5	56.3	35.0	95.0	9.8	49.6
京城	12.6	55.7	10.9	51.6	37.5	99.5	8.8	47.8
天津	8.0	46.4	7.9	46.2	37.5	99.5	8.7	47.7
大泊	2.7	36.9	3.0	37.4	29.2	84.6	13.8	56.8
關東	2.7	36.9	3.0	37.4	29.2	84.6	13.8	56.8
旅順	10.4	50.7	10.2	50.4	35.4	95.7	8.8	47.8
北海道	8.6	47.5	8.5	47.3	33.5	92.3	3.8	38.8
函館	7.0	44.6	6.9	44.4	33.5	92.3	3.7	38.7
旭川	5.7	42.3	5.2	41.4	35.0	95.0	9.7	47.5
内地府縣	2.6	36.7	2.1	35.8	35.5	95.9	5.7	42.1
那霸	2.6	36.7	2.1	35.8	35.5	95.9	5.7	42.1
長崎	15.5	59.9	15.6	60.1	36.7	98.1	27.8	82.0

澎湖	臺中	臺北	基隆	釜山	京城	天津	大泊	關東	旅順	北海道	函館	旭川	内地府縣	那霸	長崎
33.7	33.3	22.8	22.6	14.0	12.6	8.0	2.7	2.7	10.4	8.6	7.0	5.7	2.6	2.6	15.5
73.9	73.2	72.7	72.7	57.2	55.7	46.4	36.9	36.9	50.7	47.5	44.6	42.3	36.7	36.7	59.9
23.6	23.1	22.6	22.6	13.5	10.9	7.9	3.0	3.0	10.2	8.5	6.9	5.2	2.1	2.1	15.6
73.7	73.8	72.7	72.7	56.3	51.6	46.2	37.4	37.4	50.4	47.3	44.4	41.4	35.8	35.8	60.1
33.9	33.9	38.6	38.6	35.0	37.5	37.5	29.2	29.2	35.4	33.5	33.5	35.0	35.5	35.5	36.7
93.0	102.7	101.5	101.5	95.0	99.5	99.5	84.6	84.6	95.7	92.3	92.3	95.0	95.9	95.9	98.1
昭和三年七月	同二年八月	一〇一七	一〇一七	九一八	八一八	八一七	一三八	一三八	八一八	三七一八	三一七八	一九一七	五一七	五一七	二七八
(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
七三	一〇	〇二	〇二	二四〇	二三一	二四六	三三七	三三七	一九三	二二七	二二七	四一〇	四九	四九	五六
四五	三〇	三六	三六	六八	九六	一二三	二六九	二六九	二七	七一	七一	四一八	四〇八	四〇八	二二九
三三	三四	三四	三四	四一一	四一一	四一一	四一一	四一一	六四二	二四一一	二四一一	三五一一	七一	七一	四一一



青森	八九	四八四	九三	四八七	三六〇	九六八	四一八	(-)	一九〇	(-)	二二	二四一
新潟	二三八	五五八	二二六	五四七	三九二	一〇三四	四二八	(-)	九七	(-)	一四五	三五二
東京	一四三	五七四	一三九	五七〇	三六六	九七九	一九一七	(-)	八六	(-)	一六五	昭和二年
大阪	一五三	五九七	一五一	五九二	三七六	九九七	四二一八	(-)	七一	(-)	一九二	二四一

(-)は零點下を示す

### 七 雨 量

臺灣は南北に依り其の降雨期を異にす。即ち北部は十月より翌年三月迄の冬季六箇月、南部は五月より九月に至る夏期五箇月を雨期とす。北部は基隆附近最も降雨量多く、基隆に近き暖暖は一年四千三百餘耗を算し、且つ世界有数の降雨地として知らる。南部に於ては潮州郡蕃地クワルスの四千五百餘耗最多量を示し、降雨量の最も少きは澎湖島にして一年の總量九百餘耗なり。

更に之を内地其の他と比較するに、臺灣は全島を通じて一般に他の地方よりも降雨量多きもの如し。

恒春	二二四六	二一八八	四〇八	七月
蕃地クワルス	四五三	五三八九	三三〇	元
臺東	一五二六	一八二〇	一九九	八
臺南	一七一九	一六九九	三三五	九
澎湖	九二八	九八六	一〇六	九
阿里山	三九四三	三九二四	六七三	二
臺中	二二七七	一七五一	二〇七	二
臺北	一五四八	二二一九	二二九	三
臺灣總量	二二四六	二一八八	四〇八	元
昭和四年總量	二二四六	二一八八	四〇八	元
累年平均總量	二二四六	二一八八	四〇八	元
昭和最多年	二二四六	二一八八	四〇八	元



青新

森瀉

一八三〇  
一、二二七

一八二〇  
一、四〇〇

一五一  
四一

九一三九  
五二二四

東	大	長	那	内 地 府	旭	札	函	北 海	關 東	樺 太	樺 太	城	京	釜	朝	駿	基
---	---	---	---	-------------	---	---	---	--------	--------	--------	--------	---	---	---	---	---	---

京	阪	崎	羽	縣	川	幌	館	道	順	州	泊	太	津	城	山	鮮	駿	隆
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

一、九〇九	一、二五一	一、八〇三	二、二四六	一、〇六四	一、二二二	一、二二七	四〇四	六〇六	五三三	一、一三〇	七三三	四、三三二	二、四九九
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-----	-----	-------	-----	-------	-------

一、五八四	一、三六七	一、九四一	二、二二三	一、〇七一	一、〇三〇	一、二六四	?	七三七	七三二	一、二五四	一、四四二	五、〇九五	二、九二一
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	---	-----	-----	-------	-------	-------	-------

一七六	一七九	一七〇	一八五	七五	八二	一〇二	?	七	六	一三七	一七	七〇	一五二
-----	-----	-----	-----	----	----	-----	---	---	---	-----	----	----	-----

九一〇	九一〇	七一六	九一八	八一八	八一六	八一七	?	七一七	六一八	七一二	九一六	五二三	五二三
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	-----	-----	-----	-----	-----	-----



# 八人口

臺灣の總人口は昭和四年末現在四百五十餘萬人にして内、内地人二十二萬人、本島人四百二十萬人(平地居住の蕃人を含む)、蕃人八萬六千人(蕃地居住者のみ)、外國人四萬人なり。昭和四年末現在帝國の總人口は八千七百萬人を算し、臺灣は四百五十萬人(蕃地居住の蕃人を含む)にして實に其の五分を占む。

更に臺灣の人口を列國のそれに比すれば略々智利と勃爾牙利との中間に位す。

## 一 種族別人口 (昭和四年末現在)

種族	總數	男	女	百分比
内地人	45,487,500	23,300,199	22,187,301	100.0
本島人	3,307,300	1,900,402	1,406,898	4.9
蕃人	4,987,833	2,379,970	2,607,863	9.3
外國人	86,129	43,450	42,679	0.2
總數	54,868,762	27,763,971	27,104,791	

本島人中には平地の蕃社に居住する蕃人五萬四千五十人を合算せり。故に本表の蕃人には蕃地の蕃社に居住する者のみを掲せり。

## 二 内地其の他との人口比較 (昭和四年末現在)

地域	實數	百分比	一方籽に付	一方里に付
臺灣	47,069,334	100.0	一元	1,990
朝鮮	4,548,750	5.2	二六	1,950 (3,580)
朝鮮太	1,931,061	3.2	八	1,351
樺太	251,333	0.3	七	107
北海道	2,677,000	3.0	三〇	456
内地府縣	60,311,100	9.3	二〇六	3,171

本表の外租借地としての關東州(州内、鐵道附屬地)は人口百二十二萬五千七百八十八人を有し、一方籽に付三百二十八人(一方里に付五千六十五人)及南洋委任統治區域は人口六萬六千七百二十一人を有し、一方籽に付人口三十一人(一方里に付四百八十人)を算す。

括弧内の數字は平地面積に對する平地人口の割合を示す。

朝鮮、樺太、關東州及南洋委任統治區域は拓務省統計概要に依る。

南洋委任統治區域は昭和五年四月一日現在なり。

北海道、内地府縣は昭和四年十月一日現在にして帝國統計年鑑に依る。



九 本籍別内地人

臺灣在住内地人の總數は昭和四年末現在(警務局調査)に於て二十一萬五千七百六十六人にして内、鹿兒島縣の二萬五千四百八十五人第一位を占め、熊本縣は二萬二千百三十七人にて之に亞ぎ、福岡縣は遙かに下りて一萬二千八百四十二人を以て第三位に在り、廣島、山口の二縣順次に亞ぎ、其の最も少きは青森縣の四百六十一人なり。

縣	總數	百分比	順位
鹿兒島	二五,四八五	一一.九	一
熊本	三三,一三七	一〇.三	二
福岡	一二,八四三	六.〇	三
廣島	九,八二九	四.六	四
山賀	九,五〇三	四.四	五
佐賀	九,四九二	四.四	六
長崎	八,五二一	三.九	七
東京	七,三〇七	三.四	八
京城	七,〇六六	三.四	九
分府	六,四四五	三.〇	一〇
大宮	五,八三三	二.七	一一
沖繩	五,二九〇	二.五	一二
總數	二五七,七六六	一〇〇.〇	

宮大兵愛岡愛高福岐茨靜石島香長徳京和千  
歌

崎阪庫媛山知知島阜城岡川根川野島都山葉

四,九八八	二.三	三
四,九〇九	二.三	四
四,七三三	二.三	五
四,六六七	二.二	六
四,一六〇	一.九	七
三,九八四	一.八	八
三,五九〇	一.七	九
三,〇三三	一.四	一〇
二,九〇三	一.三	一一
二,八五七	一.三	一二
二,八五三	一.三	一三
二,八二一	一.三	一四
二,七四七	一.三	一五
二,六八九	一.三	一六
二,五二〇	一.二	一七
二,四四三	一.二	一八
二,四二三	一.二	一九
二,三七四	一.二	二〇
二,二一一	一.〇	二一















一二 臺灣語を話す内地人

内地人にして臺灣語を話すもの、數は、明治三十八年の六千八百二十九人より、大正四年の一萬六千五百九十一人に増加し、更に大正九年には一萬七千二百七十三人に増加したるも、その内地人千に對する割合は、大正四年の百四十二人五分より、大正九年の百五人二分に減退したり。

總數 男 女 指數

男女別内地人千に付  
平均 男 女

明治三十八年	六八元	六〇〇	八〇元	一〇〇	一九二	一七八	三五六
大正四年	一六五元	一三、四〇三	三、一八八	二四三	二三五	一七六	五三四
同 九年	一七、二七三	一四、九六六	二、三〇七	二五三	一〇五二	一六二六	三三二

本表は第一回及第二回戸口調査並に第一回國勢調査の結果にして何れも十月一日現在なり。

一三 國語を解する本島人

本島人にして國語を解するもの、數は、明治三十八年の一萬一千二百七十人より、大正四年の五萬四千三百三十七人に増加し、更に大正九年には九萬九千六十五人に増加したるも、尙本島人千に對し僅かに二十八人六分を算するに過ぎず。

總數 男 女 指數

男女別本島人千に付

平均 男 女

明治三十八年	一二七〇	一〇、八〇二	四六九	一〇〇	三八	六八	〇三
大正四年	五、四三七	五〇、一四三	四、一四四	四八三	一六三	二九一	二六
同 九年	九、〇六五	八七、八九七	二、二六八	八七九	二八六	四九三	六六

本表は第一回及第二回戸口調査並に第一回國勢調査の結果にして何れも十月一日現在なり。



一四 婚姻、離婚、出生及死亡

臺灣に於ける最近十八年間の婚姻、離婚、出生及死亡を觀るに、人口千に付婚姻は大正元年の十一件三分より昭和四年の十件五分に減少し、離婚は同じく一件五分より昭和四年の一件に減少し、出生は大體に於て増加の傾向を有し、大正元年の四十一人九分より昭和四年の四十四人四分に増加せり。死亡は年に依り相違ありと雖も漸減の狀態にあり、大正七年の如きは三十四人八分の多きに達したるも、昭和四年には二十一人七分に減退したり。従つて出生の死亡超過數は年により懸隔あり、大正七年の如き僅かに二萬人に過ぎざりしが、昭和四年には十萬一千人の多きに達したり。

婚姻	離婚	出生(生産)	死亡	自然増加 (出生超過)
大正元年	五、〇八二	一四〇、四九八	八四、九六三	五五、五三五
同 二年	五、一六〇	一四一、三七九	八六、六一〇	五四、七六九
同 三年	四、六六四	一四六、一三六	九七、五一一	四八、六二五
同 四年	五、一九五	一四二、五〇五	一一二、二二三	三〇、三八二
同 五年	五、四四五	一三三、七七七	一〇二、五一九	三一、一九八
同 六年	五、〇七八	一四八、二〇九	九七、九四九	五〇、二六〇
同 七年	四、九六八	一四五、一六二	一二四、六七七	二〇、四八五
同 八年	五、一六五	一四二、三二〇	九八、九九一	四三、三一九

同 九年	四〇、九二五	四、七二二	一四七、三〇八	一一九、四七七	二七、八三二
同 十 年	四〇、八二九	四、六五八	一六一、九八七	九一、五二三	七〇、四七四
同 十一年	三七、八三二	四、二二五	一六一、八二九	九五、三七二	六六、四五七
同 十二年	三九、四八〇	四、三三八	一五四、〇七八	八四、一〇八	六九、九七〇
同 十三年	四二、一〇一	四、四五七	一六六、一八三	九八、四〇五	六七、七七八
同 十四年	三七、六〇三	四、〇六六	一六六、九〇一	九八、〇四三	六八、八五八
昭和元年	四六、七七八	四、八一二	一八三、三六〇	九三、七二〇	八九、六四〇
同 二年	四五、五七三	四、五五四	一八五、一九五	九四、八四三	九〇、三五二
同 三年	四二、六七九	四、五〇六	一九一、八三九	九六、三二〇	九五、五二九
同 四年	四六、八二六	四、四六三	一九七、九六七	九六、八七〇	一〇一、〇九七



一五 出生率

臺灣の出生率は之を最近十八年間に就て觀るに、年に依りて増減ありと雖も、概して増加の趨勢にあり、昭和四年は人口千に付四十四人四分を示せり。  
 更に之を内地其の他と比較するに、臺灣は其の割合最も高く、北海道之に亞ぎ、關東州最も低し。又列國中出生率の最も高きは智利の四十四人八分(昭和四年)なるが故に、我臺灣の出生率は世界に於て最も高き部類に屬す。

一 出生率 (人口千に付)

大正元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年	十三年	十四年	十五年	十六年	十七年	十八年	昭和元年
平均	41.9	41.4	42.1	40.9	38.2	41.6	40.5	39.2	40.1									
内地人	29.8	30.7	30.8	33.7	33.5	37.4	35.4	33.2	33.8									
本島人	43.5	43.0	43.8	41.4	38.4	41.9	40.9	39.6	40.6									
外國人	21.8	15.5	16.0	18.8	18.6	19.2	20.3	23.2	21.6									

二 内地其の他との出生率累年比較 (人口千に付)

大正元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	昭和元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年	十三年	十四年	十五年	十六年	十七年	十八年	昭和元年	
臺灣	41.9	41.4	42.1	40.9	38.2	41.6	40.5																			
朝鮮	28.9	29.7	28.2	27.3	33.8	34.0																				
樺太	33.0	33.2	32.9	34.7	33.7	33.1																				
關東州	29.6	33.2	33.5	29.0	30.9	31.0																				
北海道	43.5	43.5	40.9	43.0	42.7	41.9																				
内地府縣	33.9	33.7	33.2	33.5	33.1	33.9																				





同八年	三九二	二七六	二八四	二五六	三〇〇	三〇八
同九年	四〇一	二七六	三五二	二六三	四一三	三〇七
同十年	四三二	二九七	三三二	二五四	三八五	三四九
同十一年	四三三	三三八	三三三	二六四	三七四	三四三
同十二年	三九六	四〇二	三三二	二五四	三五八	三四九
同十三年	四三〇	三八二	三四三	二七三	三四六	三四八
同十四年	四二二	三八〇	三三〇	二八七	三九三	三四八
昭和元年	四四二	三五四	三三三	二五九	三九〇	三四六
同二年	四三六	三六五	三四八	二五三	三八九	三四四
同三年	四四二	三七六	三六九	二四九	四〇〇	三四二
同四年	四四四	三七八	三七三	二六二	三八二	三八

朝鮮、樺太、關東州(州内、鐵道附屬地、領事館)は同應統計書に依る。  
北海道、内地府縣は帝國統計年鑑に依る。

### 一六 死亡率

臺灣の死亡率は之を最近十八年間に就て觀るに、是れ亦高低常ならずと雖も、大正十二年には著しく低下し、人口千に付二十一人六分を以て最低の記録を示せり。内地人の死亡率は之を本島人に比すれば甚だ低く、昭和四年には本島人二十二分なるに對し、内地人は僅かに十二分二分を示せり。

更に之を内地其他と比較するに、死亡率の最も低きは關東州にして、北海道之に亞ぎ、最近我臺灣は減少の趨勢にあり、昭和四年には朝鮮の二十三人九分最も高し。(列國中死亡率の最も高きは、智利にして昭和元年には二十七人三分を示せり)。

#### 一 死亡率 (人口千に付)

大正元年	平均	内地人	本島人	外國人
二元	二五三	一五八	二五八	一五四
三元	二五三	一五三	二五八	一三一
四元	二八一	一五〇	二八七	一九五
五元	三三二	一七三	三三九	一九四
六元	二九二	一六〇	二九八	一六八
七元	二七五	一六五	二八〇	一七七
同八年	三四八	一九六	三五五	二七七











同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	昭和元年	同二年	同三年	同四年
二〇六	二〇七	二〇八	二〇九	二一〇	二一一	二一二	二一三	二一四	二一五	二一六	二一七	二一八
二二四	二二五	二二六	二二七	二二八	二二九	二三〇	二三一	二三二	二三三	二三四	二三五	二三六
一七六	一八九	二〇一	二〇六	二一五	二二五	二三三	三四二	三四九	三五八	三六五	三七二	三七九
二二	二九	三二	三六	四一	四六	五一	五七	六三	七〇	七八	八五	九二
二二〇	二二五	二三九	二四三	二四九	二五五	二六二	二七〇	二七八	二八七	二九七	三〇七	三一五
二〇七	二〇六	二〇七	二〇七	二〇九	二一〇	二一一	二一二	二一三	二一五	二一六	二一八	二一九

朝鮮、樺太、關東州(州内、鐵道附屬地、領事館)は同應統計書に依る。  
 北海道、内地府縣は帝國統計年鑑に依る。  
 (内地府縣及北海道の大正九年以後は十月一日現在なり)。

### 一八 蕃 人

臺灣の蕃人は之をタイヤル、サイセツト、ブヌン、ツオウ、バイワン、アミ及ヤミの七種族に分つ。昭和四年末現在蕃社數は七百二十、戶數二萬三千五百七十六、人口十四萬人なるも、中五萬四千人は平地の蕃社に居住するが故に、實際蕃地に居住するものゝ數は八萬六千人なり。

各種族中人口最も多きはアミ族にして總人口の三割を占め、バイワン族の二割九分、タイヤル族の二割四分等に亞く。

種族	總數	男	女	百分比
總數	一四〇、二九六	七〇、三四七	六九、八三三	一〇〇
タイヤル	三三、七二〇	一六、五七七	一七、一三三	二四〇
サイセツト	一、二八二	六六三	六一九	〇九
ブヌン	一七、七五五	九、二一九	八、六六六	一三七
ツオウ	二、一〇三	一、一三二	九八二	一五
バイワン	四一、三三五	二〇、七八三	二〇、四五三	二九四
アミ	四二、四三五	二二、三三七	二〇、一九八	三〇三
ヤミ	一、六一九	八四八	七七一	一三

本表中平地の蕃社に居住する蕃人五萬四千五十人は本島人として人口統計に計上せらる。



### 一九 行政區劃

臺灣の地方行政區劃は、幾多の變遷を経たる後、大正九年九月一日に至り、地方官官制に根本的改革を加へ、從來の十二廳を五州二廳に改めたりしが、大正十五年七月一日更に澎湖廳を設置して三廳となし現に五州は之を七市四十五郡に分ち、郡の下には三十一街、二百二十庄を置き、三廳は之を十支廳に分ち、支廳の下には三街五庄十九區を置く。

全	臺	新	臺	臺	高	臺	花	澎
島	北	竹	中	南	雄	東	蓮	湖
州	州	州	州	州	州	州	港	廳
五	九	八	二	〇	七	一	一	一
郡	支	支	支	支	支	支	支	支
七	二	一	一	一	一	一	一	一
市	支	支	支	支	支	支	支	支
三	六	四	〇	七	四	一	一	一
街	支	支	支	支	支	支	支	支
三	三	三	五	五	四	一	一	一
庄	支	支	支	支	支	支	支	支
五	三	三	五	五	四	一	一	一
區	支	支	支	支	支	支	支	支
九	一	一	一	一	一	一	一	一

本表は昭和五年末現在なり。



### 二〇 州及廳の面積

五州三廳中、面積の最大なるは臺中州の四百七十九方里にして、高雄、臺南、花蓮港、新竹、臺北、臺東の順序を以て之に亞ぎ、澎湖廳は僅かに八方里餘を以て最小の地位を占む。

今之を内地府縣に比較すれば、臺中州は熊本、宮城の中間に、高雄州は山口、三重の中間に、臺南州は和歌山、千葉の中間に、花蓮港廳は愛媛、京都の中間に、新竹州及臺北州は京都、山梨の中間に、臺東廳は奈良、鳥取の中間に位し、澎湖廳は面積狭小にして比較すべき府縣なし。

#### 一 州及廳の面積

全	面積		百分比
	方軒	方里	
臺新臺高	三五、九七三・七	二、三三三・三九	一〇〇・〇
北竹中	四、五五七	二九六・〇二	一三・七
臺南	四、五九八・六	二九八・二六	一三・八
高雄	七、三三四	四七八・七一	二〇・五
澎湖	五、四二五	三五二・五一	一五・一
臺北	五、七三六	三七一・〇三	一五・九



新臺山 竹北梨 州縣縣縣  
 竹北梨 州縣縣縣  
 州縣縣縣

四,五九八六  
 四,五六五七  
 四,四五四八  
 三,七三〇二  
 三,五三六四  
 三,四八九六

二,九八二六  
 二,九六〇三  
 二,八八八三  
 二,四一八五  
 二,三八六四  
 二,三六二五

熊臺宮 中山雄 州縣縣縣  
 本城中 口雄重 縣州縣縣  
 山歌南 葉南山 州縣縣縣  
 千葉南 縣州縣縣  
 愛媛南 縣州縣縣  
 花媛南 縣州縣縣  
 京都港 府府府府

方杆  
 七,四三六六  
 七,三三三四  
 七,二七三七  
 六,〇八二一  
 五,七三三六  
 五,七〇一一  
 五,六六七一  
 五,四二一五  
 五,〇七八八  
 四,七三三三  
 四,六二八六  
 四,六二二二

方里  
 四,八二二三  
 四,七八七一  
 四,七一三三  
 三,九四三四  
 三,七二〇三  
 三,六九七〇  
 三,六七三三  
 三,五一五一  
 三,三九二九  
 三,〇六八五  
 三,〇〇一〇  
 二,九九六二

臺東港 縣縣縣  
 花蓮港 縣縣縣  
 澎湖廳 縣縣縣

二 內地府縣との面積比較

三,五三六四  
 四,六二八六  
 二,六九九

三,八六六四  
 三,〇〇一〇  
 八,二二三

九八  
 二,三九九  
 〇,三

面積



### 二一 州及廳の人口

五州三廳中人口の最も多きは臺南州の百十四萬人にして、臺中州は九十八萬人を以て之に亞ぎ、以下臺北、新竹、高雄、花蓮港、澎湖、臺東の順序を以てし、一方里の人口は澎湖廳の七千六百八十八人最も高く、臺東廳の七百十人最も低し。

次に昭和五年十月一日に於ける臺灣現住人口を内地府縣に比較すれば、臺南州は岐阜、三重の中間に、臺中州は山形、秋田の中間に、臺北州は大分、青森の中間に、新竹及高雄の兩州は滋賀、山梨の中間に位し、花蓮港、臺東及澎湖の三廳は人口寡少にして比較すべき府縣なし。

#### 一 州及廳の人口 (昭和四年末現在)

州	實數	百分比例	一方里に付人口	全面積
全	4,462,632	100.0	3,588	1,950
臺南	908,019	20.3	5,234	3,086
臺中	660,035	14.8	3,871	2,255
新竹	984,105	22.1	4,280	2,090
臺北	1,145,128	25.7	3,576	3,262
高雄	586,632	13.1	3,266	1,659

平地(蕃地を控除)面積(せる面積)

廳	實數	百分比例	一方里に付人口	全面積
臺東	66,055	1.5	721	252
花蓮	69,544	1.6	794	265
澎湖	63,993	1.4	765	265

本表には蕃地の蕃社に居住する蕃人を含まず、但し一方里に付人口の全面積には蕃地居住の蕃人も加へて算出せり。

#### 二 内地府縣との人口比較 (昭和五年十月一日現在)

府縣	人口
岐阜	1,278,405
臺南	1,159,646
重慶	1,157,407
山形	1,080,334
秋田	1,015,546
大分	987,706
青森	945,771
滋賀	913,531
新竹	879,824
臺北	691,631
高雄	664,721



高 雄 州  
山 梨 縣  
花 蓮 港  
澎 湖 廳  
臺 東 廳

六三、三一九  
六二、〇三七  
八六、八五九  
六〇、二四四  
五八、八〇一

二二二 主要都市

臺灣には昭和四年末に於て五市、三十六街あり。内、人口二萬以上の市及街は二十六にし、その第一位を占むるは臺北市の二十二萬九千、之に亞ぐは臺南市の九萬五千、基隆市の七萬五千、高雄市の五萬七千、嘉義街の五萬五千、臺中市の五萬二千、新竹街の四萬四千等なり。而して東部に於ける廳所在地たる臺東、花蓮港の兩街は僅かに一萬を有するのみなり。次に島内に於ける五市及主なる三街を内地其の他の都市に比較するに、昭和五年十月一日現在に依れば、我が臺北市は、大阪、東京、名古屋、神戸、京都、横濱、京城、廣島の八市に亞で實に第九位を占め、福岡市の上に位し、臺南市は濱松、徳島兩市の中間に、基隆市は富山、長野兩市の中間に、高雄市は山形、盛岡兩市の中間に、臺中市は宮崎、八戸兩市の中間に、新竹街は福島、米澤兩市の中間に位す。而して臺東、花蓮港の兩街は共にその人口樺太の首都豊原よりも少し。

一 主要都市の人口 (昭和四年末現在)

	總數	内地人	本島人	外國人	順位
臺北市(臺北州)	三九、〇〇五	六五、五〇八	一四八、二六一	一五、二二六	一
臺南市(臺南州)	九五、〇三三	一五、一五〇	七六、〇三〇	三、八三三	二
基隆市(臺北州)	七四、五四一	一八、〇九九	五二、四一六	四、〇二六	三
高雄市(高雄州)	五七、一七七	一四、五五四	四二、〇五九	一、五六四	四
嘉義街(臺南州)	五五、四〇五	八、五九九	四三、一九一	一、六一五	五



臺中市(臺中州)	五二,五七二	一三,八四六	三七,三七三	一,三五三	六
新竹市(新竹州)	四九,九八〇	四,九六六	三八,五四〇	四七四	七
鹿港街(臺中州)	三五,四四六	二,六九九	三四,九八二	一九五	八
屏東街(高雄州)	三三,二五〇	四,五〇六	二七,六二八	一,二六	九
斗六街(臺南州)	三〇,六三九	一,〇三二	二九,三四五	三三	一〇
清水街(臺中州)	二九,〇四七	三八一	二八,五八八	七六	一一
大溪街(新竹州)	二八,六二九	四一八	二八,一三三	六八	一二
員林街(臺中州)	二七,七六四	六九〇	二六,八〇一	二七三	一三
豐原街(同)	二七,一四一	七三四	二六,二三三	一八五	一四
麻豆街(臺南州)	二六,九六四	六六八	二六,二〇三	九三	一五
埔里街(臺中州)	二六,四六九	九九八	二五,二五九	二二	一六
南投街(同)	二五,二六一	八四五	二四,二七七	一三九	一七
宜蘭街(臺北州)	二三,九二一	二,一八〇	二二,四八一	二五〇	一八
中壢街(新竹州)	二三,八七	三六七	二三,三八五	七五	一九
淡水街(臺北州)	二三,七五九	八三三	二三,五七六	三六一	二〇
西螺街(臺南州)	二三,三〇四	一五八	二三,〇三八	一〇八	二一
彰化街(臺中州)	二三,二八〇	八四三	二二,二五〇	一八八	二二
彰化街(澎湖廳)	二三,二四六	一,三七九	二〇,二七九	六八八	二三
馬公街(澎湖廳)	二三,〇一一	二,九〇二	一九,〇七三	三六	二四

本表には人口二萬以上の市及街のみを擧げ、且つ廳所在地たる臺東、花蓮港兩街を掲ぐ。  
 新竹及嘉義の兩街は昭和五年一月市制を施行せられたり。

二 内地其の他の都市との人口比較

(昭和五年十月一日現在)

廣島	二七〇,三六五	二〇,九八〇	一〇一	二五
臺南	二三〇,四九〇	二〇,八七四	九三	二六
福岡	三三八,二八九	五,一九六	六五七	二七
濱松	一〇九,四七五	七,五九一	四七五	二八
臺南	九四,四九五			
徳島	九〇,六三四			
富山	七五,〇九九			
基隆	七五,〇七六			
長崎	七三,九二二			



山形 雄 岡崎 盛 宮 臺 八 福 新 米 豐 花 臺  
 形 雄 岡崎 盛 宮 臺 八 福 新 米 豐 花 臺  
 形 雄 岡崎 盛 宮 臺 八 福 新 米 豐 花 臺  
 形 雄 岡崎 盛 宮 臺 八 福 新 米 豐 花 臺

六三、四三三  
 六二、六九七  
 六二、三四九  
 五四、六〇〇  
 五四、二〇〇  
 五三、九〇七  
 四五、六九二  
 四四、九三六  
 四四、七三一  
 三一、六四八  
 一一、九九〇  
 一〇、四六六

樺太は國勢調査結果速報に依る。

二二三 農業戸數

臺灣の農業戸數は四十萬戸にして、總戸數の約五割を占め、農業者一戸當平均耕地面積は二町(二甲強)に當る。  
 今之を内地其の他と比較するに、總戸數に對する農業戸數の割合最も大なるは、朝鮮の七割三分にして、臺灣は第二位を占め、樺太は僅かに二割を以て最下位に在り。  
 農業者一戸當平均耕地面積の最も大なるは、北海道の四町五段にして、關東州の三町四段、樺太の二町八段之に亞ぎ、臺灣は第四位を占め、内地府縣は九段歩を以て最下位に在り。

地域	農業戸數	總戸數百に付農業戸數	農業戸數一戸當耕地面積(町)
臺灣	四〇七、七四二	四九・八	二・〇
朝鮮	二六七、六四九	七三・一	一・六
關東州	一〇三、七九	二〇・二	三・八
樺太	六一、〇〇六	四三・四	三・四
北海道	一八三、八四〇	四〇・二	四・五
内地府縣	五三九、一七三	四五・九	〇・九

本表は昭和四年末の事實なり。  
 朝鮮、樺太、關東州(州内、鐵道附屬地)は拓務省統計概要に依る。







二五 水利

臺灣に於ける埤圳の數は、七千六百七十四にして内、水利組合百五、公共埤圳三、認定外埤圳七千五百六十六なり。又其の灌溉排水面積は四十五萬甲にして内其の四割五分は水利組合の灌溉に屬す。

埤圳數 灌溉排水面積 灌溉排水面積百分比例

總	七、六七四	四、五二、九七六 <sup>甲</sup>	一〇〇・〇
水利組合	一〇五	二〇三、四九五	四五・〇
公共埤圳	三	一六三、六九一	三六・二
認定外埤圳	七、五六六	八四、七九〇	一八・八

本表は昭和四年度末現在の事實なり。



二六 農 産

臺灣の農産物は、昭和四年中の總生産價額二億六千二百萬圓にして内、普通作物一億五千二百萬圓、特用作物八千四百萬圓、園藝作物二千五百萬圓なり。  
 更に之を作物別に觀るに、米は一億二千八百萬圓を以て第一位を占め、甘蔗は七千三百萬圓を以て之に亞ぎ、甘藷の二千三百萬圓、蔬菜類の一千二百萬圓、バナナの六百六十萬圓、粗製茶の六百萬圓、鳳梨の二百四十萬圓、落花生の二百三十萬圓、柑橘の百九十萬圓、豆類の百三十萬圓等順次之に亞ぐ。

總 普通作物	米 (玄米)	甘 藷	豆 類	小 麥	其 他	特 用 作物	甘 蔗
生産價額	二六,五六二,九五九	一五,二九五,一五	二七,八七一,八八	三三,七五三,四八三	一,二五八,三六六	四,四六八	二九二,一五〇
生産價額 百分比	一〇〇	五八二	四八九	八七	〇・五	〇	一〇・一
作付面積	甲	五七九,二七四	二七,三五六	一八,四四八	四〇四	?	?
收穫高	一八,三四〇,一八六斤	三,八三,九五五石	二,五二四,一六三斤	六,三九九,九九斤	一,九一五,六一七斤	六,七四五石	八八九,〇〇斤
	二二,〇四五	二二,二九一,九四四	二〇,五斤				

粗 製 茶	落 花 生	煙 草	黃 麻	苧 麻	香 花	泥 藍	胡 麻	其 他	園 藝 作物	枇 杷	龍 眼	檳 榔	鳳 梨	檳 榔	李 仔	蔬 菜			
生産價額	六,〇〇五,〇〇九	二,二六六,八八〇	九三三,四六九	七四一,五〇二	六二二,三五二	一六九,二二四	七六,〇五八	三三八,七五六	一八九,八三九	三六,一八四	二四,九八五,〇〇四	六,六二七,〇一〇	一,八九二,二一一	九二七,九八七	一九三,一六一	二,三九一,七三六	一九八,〇七四	一六八,二〇六	二二,〇六三,八五一
生産價額 百分比	二・三	〇・八	〇・四	〇・三	〇・二	〇・一	〇	〇・一	〇・一	九六	二・五	〇・七	〇・四	〇・一	〇・九	〇・一	〇・一	四六	
作付面積	四三,八〇五	二六,四七二	九一七	二,六七七	一,七八四	二,六二八	五〇四	三二七	二九七	?	一五,〇一三	三,一七七	二,三六九	七四一	三,八一八	四八三	六五七	?	
收穫高	一八,三四〇,一八六斤	三,八三,九五五石	二,五二四,一六三斤	六,三九九,九九斤	一,九一五,六一七斤	六,七四五石	八八九,〇〇斤	一,七一九,六四一斤	二,三五四,一三斤	?	一九七,六六三,五六六斤	三四,二六六,八〇三斤	二四,七八八,五三斤	五,二二一,八七五斤	四六,六二六,六三箇	六,五五〇,五五〇斤	六,一七〇,八五六斤	?	



其の他  
蠶繭

五三、七六八  
八四、〇三二

〇・三

?

二、四六石

二七 畜産

臺灣の畜産物生産總價額は、昭和四年に七千八百萬圓を算し内、家畜生産七千二百萬圓、家禽生産五百五十萬圓、牛乳四十七萬圓なり。  
家畜生産中、豚は三千八百萬圓を以て第一位を占め、水牛の二千六百萬圓之に亞ぐ。家禽生産第一位を占むるは鶏の四百二十萬圓なり。

總額  
家畜類  
水牛  
黄牛  
雜種牛  
豚  
山羊  
其他  
家鶏

生産價額  
七、八四〇、八二八  
七、二四〇、二一六  
二、五、六四六、九六六  
七、一四二、〇三三  
八、四三、八四二  
二、〇〇、三三五  
三、七、七〇三、八八五  
七、七、六一〇  
一、四七、五〇〇  
五、五三二、九四五  
四、一三三、二五四

生産價額  
百分比例  
一〇〇・〇  
九二・三  
三二・八  
九・〇  
一一・一  
〇・三  
四八・〇  
〇・九  
〇・二  
七・一  
五・五



牛 七 鷺 鷺  
面 鳥  
乳 鳥

九三七、三九  
三三九、三四九  
二二〇、三三  
四七四、一八三

一三  
〇四  
〇六

### 二八 林 産

臺灣の林産物生産總價額は、昭和四年に一千四百萬圓を算し内、用材の四百八十萬圓第一位を占め、薪材の三百三十萬圓、竹材の二百萬圓、木炭の百五十萬圓、龍眼肉の七十萬圓等順次に亞ぐ。

總 額  
用 薪 竹 木 筍 藤 蓮 龍 樟 薯 製  
腦 原 料  
類 材 材 材 炭 草 肉 皮 榔 料

價 額  
一三、八八六、九九四  
四、八三四、二六三  
三、三六九、一〇六  
一、九七一、一八八  
一、四八五、五〇〇  
六〇一、八四四  
二〇九、六一〇  
八六、八七七  
七、一六、四一三  
五、五、六一九  
六、三、三八四  
二、三、五、三五

價 比 例  
一〇〇  
三四八  
二三五  
一四二  
一〇八  
四三  
一五  
〇六  
五三  
〇四  
〇五  
〇二



愛玉 姜芝 班桃 月他 其の

八、二七二  
 三八、三八三  
 四七、九三三  
 一九、五〇二  
 四五、五六六  
 〇  
 〇・二  
 〇・三  
 〇・一  
 三・三

二九 鑛 産

臺灣の鑛産總價額は、昭和四年に一千五百萬圓を算し内、石炭は總價額の六割七分、即ち一千萬圓を以て第一位を占め、金銅鑛は三百萬圓、金の六十萬圓、石油の四十萬圓等順次に亞ぐ。

總額	産額	價額	價百分比額
石炭	一、五三〇、〇三五噸	一五、〇九〇、六三三	一〇〇
金	一三〇、八二六匁	一〇、〇六四、五六八	六六・七
沈澱	六九、四五七貫	六五、四三三	四・一
石油	五七、一〇〇石	六七、六五五	〇・四
銅	三六、九三九、二六七貫	四三、四七三	二・九
硫磺	二六、九三九、二六七貫	三、二六八、七七	二〇・八
銀	八〇五、六四一斤	三、三六七、〇	〇・二
砂	九七、八四二匁	三、三六七、〇	〇・二
揮發油	二、四五二匁	一、二、九九二	〇・一
金	三三、五六六石	一、一、〇四七	〇・一
鑛	八二、四二〇貫	三、八二、五九八	二・五
水銀	七、四六一匁	三、三、四七七	二・一
鑛		七、五七三	〇・一



三〇 水産

臺灣の水産總價額は、昭和四年には二千一百九十萬圓を算し内、水産漁獲物一千四百四十萬圓、養殖場漁獲物三百七十萬圓、水産製造物二百八十萬圓、製鹽一百萬圓なり。  
 更に之を品目別に觀れば、鮪の二百五十萬圓第一位を占め、虱目魚サバダイの二百二十萬圓、鯛の二百萬圓、鯉節の百五十萬圓、鯉の百二十萬圓等順次之に亞ぐ。

水産漁獲物	總額	價額	百分比額
鯛	二二,九四三,九一五	100.0	
鯉節	一四,四四六,二六五	六五.九	
鯉	二〇,二八四,四〇二	九.二	
虱目魚	一,二四三,〇九九	五.七	
鱈	六三,七四七.一	二.九	
鱻	九二,六七八.三	四.二	
鱈	四一三,三七五	一.九	
鱈	三,四二,一六八	一.六	
鮪	二,四九四,七五三	一.四	
鮪	五,七四,〇〇八	二.六	
黃鮪	二,三五,六〇六	一.〇	
花魚			



製 其 鹽 鱈 鱈 浦 煮 鯉 水 其  
 の 魚 鱈 仔 干 節 産 の  
 鹽 他 魚 鱈 仔 干 節 物 他

111,847  
 275,420  
 151,463  
 371,647  
 216,685  
 98,109  
 221,026  
 23,329  
 337,171  
 987,546

0.5  
 13.6  
 6.9  
 1.7  
 1.0  
 0.4  
 1.0  
 0.1  
 1.5  
 4.5

養 其 珊 烏 蝦 文 鱈 太 鮫 鯖 狗  
 殖 其 珊 烏 蝦 文 鱈 太 鮫 鯖 狗  
 場 其 珊 烏 蝦 文 鱈 太 鮫 鯖 狗  
 漁 其 珊 烏 蝦 文 鱈 太 鮫 鯖 狗  
 獲 其 珊 烏 蝦 文 鱈 太 鮫 鯖 狗  
 物 其 珊 烏 蝦 文 鱈 太 鮫 鯖 狗  
 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚  
 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚

369,449  
 125,385  
 73,587  
 72,591  
 79,311  
 85,352  
 194,753  
 204,235  
 1,043,824  
 3,313,134  
 3,734,684  
 2,251,264  
 232,884  
 233,307  
 681,020  
 148,454  
 131,008

1.7  
 0.6  
 0.3  
 0.3  
 0.4  
 0.4  
 0.9  
 0.9  
 4.8  
 15.1  
 17.0  
 10.1  
 1.0  
 1.0  
 3.1  
 0.7  
 0.6



三一 工業

臺灣の工業生産總價額は、昭和四年に二億四千七百萬圓を算し内、砂糖の一億五千四百萬圓は群を抜いてその第一位を占め、再製茶の一千萬圓、帽子の六百八十萬圓、酒精の五百九十萬圓、木製品の四百七十萬圓、敷瓦及屋根瓦の四百六十萬圓、調合肥料の四百三十萬圓等順次之に亞ぐ。

總額	生産價額	生産價額 百分比例
砂糖(稅拔)	二四六,九六八,九八〇	一〇〇.〇
酒精(稅拔)	一五三,五六八,二〇四	六三.三
再製茶	五,八八三,七四二	二.三
原動機及其の附屬機械類其他	一〇,三五二,二九五	四.二
木製品	三,八一五,九八三	一.五
セメント	四,六六〇,二五四	一.九
染色類	三,三八四,七八三	一.四
麵類	八六六,九一七	〇.三
煉瓦(耐火共)	三,〇四五,二六七	一.二
	三,一〇六,四六六	一.三

調合肥料	四,二七一,八七〇	一七.〇
金銀細工	二,一三九,九八五	〇.九
味噌及醬油	二,七二八,四二五	一.二
植物油	三,一五八,七八〇	一.三
敷瓦及屋根瓦	四,五七〇,五六八	一.九
金銀紙	一,七三九,六三〇	〇.七
製粉	二,四七四,九五八	一.〇
織物	一,七七二,九五〇	〇.七
糖蜜(稅拔)	二,九六〇,一六二	一.二
帽子	六,八一,八五四	二.八
靴	一,二三三,八三四	〇.五
製氷	一,五四五,五〇四	〇.六
竹細工	一,四八七,〇六四	〇.六
鳳梨罐詰	四,四二五,二二六	一.八
板樟腦	一,二六四,八一六	〇.五
紙	一,一三七,五九三	〇.五
其他	一四,五六二,八四〇	五.九





三二糖業

臺灣の糖業は昭和五年期に於て、公稱資本金二億五千餘萬圓・作業工場數百五十三、作業能力四萬二千噸を有し、其の製糖高十三億五千萬斤に達す。就中新式製糖會社の數は十一にして作業工場數四十八、作業能力四萬一千噸を有し、その製糖高十三億三千萬斤を算す。

總數	公稱資本金	作業工場數	作業能力	製糖高	製糖高百分比
新式製糖會社	二五二,四九三	一五	四三,二八〇	一,三五〇,八〇五,八八六	一〇〇
臺灣製糖	二四五,七七七	四八	四〇,七〇〇	一,三三〇,五〇五,八九七	九八五
新興製糖	六三,〇〇〇	三	一一,三三〇	三六,六七九,六一九	二七九
明治製糖	一,二〇〇	一	八五〇	一四,七二一,一〇〇	一一
大日本製糖	四八,〇〇〇	七	七,九五〇	二六二,三三三,八六六	一九四
鹽水港製糖	五二,四一七	六	六,四〇〇	二五二,二八一,四〇一	一八六
新高製糖	二九,二五〇	六	五,二五〇	一七七,八三三,八二〇	一三二
帝國製糖	二八,〇〇〇	三	三,〇五〇	七六,二四八,〇五〇	五六
昭和製糖	一八,〇〇〇	五	三,〇〇〇	二八,七五九,四九六	九五
臺東製糖	三,二六〇	三	一,五七〇	三三,一五四,〇五〇	一七
	一七,五〇〇	二	五〇〇	六,四二八,一八五	〇五

新竹製糖	一,二〇〇	一	五〇〇	七,六八一,二五〇	〇六
沙轆製糖	七〇〇	一	三〇〇	五,三九六,一〇〇	〇四
改良糖廠	六,七二六	一五	六八〇	一一,七五〇,一三五	〇九
舊式糖廠	?	九〇	九〇〇	八,五四九,八五四	〇六

昭和五年期とは昭和四年十一月より同五年十月に至る期間を謂ふ。



三三三 貿易

臺灣の貿易は之を外國貿易及内地貿易(臺灣内地間)の二種に分つべきも、今之を總括すれば明治三十年の三千一百萬圓より大正元年の一億二千五百萬圓に進みたり。大正二、三の兩年は少しく減退したるも、大正六年には二億圓臺に上り、大正八年には更に三億圓臺を突破し、大正十年及十一年は再び二億八千圓に減退せるも大正十二年には復た三億圓臺に上り、昭和四年には四億七千萬圓に達し、人口一人當百七圓を算せり。

次に貿易總額に對する内外兩貿易の割合を観るに、内地貿易は常に過半數を占め少きも七割、多きは八割に達し、内地と臺灣とが國家經濟の見地よりして益々密接不離の有機的關係を増大しつゝあるは明白なる事實なり。

一 貿易總表

年	總額	指數	外國貿易		内地貿易		百分比例		
			千円	千円	千円	千円	外國貿易	内地貿易	平均一人當
大正元年	二五,四二四	一〇〇	三,四二七	九,一五七	二七・三	二七・三	三七・四	三・四	
同二年	二四,二四八	九二	三〇,九六六	八,三二二	二七・一	二七・一	三七・四	三・四	
同三年	二一,六三三	八九	二五,九九六	八,五六七	二七・三	二七・三	三七・四	三・四	
同四年	二九,〇三三	一〇三	二八,二二二	一〇,〇八二	二二・九	二二・九	三七・〇	三・〇	
同五年	一七,三七〇	一四二	四七,〇八三	一三,〇二七	二六・五	二六・五	三五・五	五・五	

年	總額	指數	外國貿易	内地貿易	外國貿易	内地貿易	平均一人當
同六年	二四,六九一	一八七	六一,三二五	一七,三三六	二六・一	二六・一	六五・九
同七年	二四,三五六	一九四	六六,九四九	一七,六二七	二七・五	二七・五	六八・〇
同八年	三三,五五六	二六五	九九,七五五	二二,七八一	三〇・〇	三〇・〇	九一・六
同九年	三八,七〇二	三二〇	九五,五四〇	二九,三二二	二四・六	二四・六	一〇五・八
同十年	二八,三九三	二三八	六三,九七五	二二,四一八	二二・三	二二・三	七六・三
同十一年	二七,九六〇	二二二	六七,四八五	二〇,九四五	二四・四	二四・四	七二・五
同十二年	三〇,八七二	二四六	六八,二六四	二四,〇六〇	二二・一	二二・一	七九・三
同十三年	三六,七〇〇	三〇八	八九,〇〇〇	二九,七〇〇	二二・〇	二二・〇	九七・七
同十四年	四四,六一〇	三三八	一〇四,四五五	三三,五一五	二二・二	二二・二	一〇七・七
昭和元年	四四,八三八	三四七	一一一,三三三	三三,五一五	二二・六	二二・六	一〇四・七
同二年	四三,六二五	三四六	一一〇,四三八	三三,一八七	二二・五	二二・五	一〇二・〇
同三年	四三,〇七一	三五〇	九二,三三一	三四,八四〇	二二・〇	二二・〇	一〇〇・九
同四年	四六,八〇四	三八〇	九七,七二九	三七,〇七五	二〇・五	二〇・五	一〇六・八

二 外國貿易

年	總額	指數	輸出	輸入	輸入超過
大正元年	三〇,二六七	一〇〇	一四,九六〇	一九,三〇七	四,三四七
同二年	三〇,九六六	九〇	一二,九四二	一八,〇二四	五,〇八二
同三年	二五,九六六	七六	一二,九八二	一三,〇二四	三・三







### 三四 對手國別外國貿易

臺灣の外國貿易は大體に於て輸入超過を示す。而して對手國中、中華民國は累年主要の地位に在り。即ち輸出貿易總額に對する其の割合は少きも二割九分、多きは六割を占め、輸入貿易に於ては少きも三割四分、多きは五割七分を占む。

今昭和四年の外國貿易に就て觀るに、貿易總額九千八百萬圓、内、輸出額は三千三百萬圓にして、就中華民國の一千八百萬圓最も多く、總額の五割三分に當り、蘭領印度の四百三十萬圓、香港の四百十萬圓、北米合衆國の四百萬圓等順次之に亞ぐ。輸入額六千五百萬圓中第一位を占むるは中華民國の三千萬圓にして、總額の四割五分に當り、英領印度の九百四十萬圓、獨逸の六百六十萬圓、英吉利及北米合衆國の三百九十萬圓、佛領印度支那の二百八十萬圓、關東州の二百二十萬圓等順次之に亞ぐ。

#### 一 輸出

總額	昭和四年	同三年	同二年	同元年	大正十四年	同十三年	同元年
關東州	三三,一九五	三三,八九六	四四,五九八	四九,三二五	四七,九六六	四二,五七六	一四,九六〇
中華民國	一一,二一六	七九五	九〇八	一一,六二二	一一,八八	八六一	一三
香港	一七,六九〇	一五,三〇一	二四,七九一	二九,七六〇	二六,三四七	三二,一五四	四,二六四
蘭領印度	四,一六	五,〇七六	六,〇八三	四,四五八	五,〇四四	五,七六六	三,九三
佛領印度支那	四,三九六	四,三三二	三,七八八	四,〇三二	四,〇〇五	三,五四〇	三三

#### 二 輸入

總額	昭和四年	同三年	同二年	同元年	大正十四年	同十三年	同元年
英領印度海峽植民地及英領ガルネオ	三四	四二	三七一	八七四	九九六	一,三九三	—
暹羅	五五	一四七	六四六	五七九	五一三	三二二	三四五
比律賓諸島	八五	三〇八	四九六	三七五	四六三	六〇一	五二
佛蘭西	三九	三八三	三四七	二三四	六五九	八〇九	六八二
獨逸	三	五八	一七七	一三三	一三四	三三四	一,五七三
英吉利	一,〇二七	一,一四一	一,一八〇	九六六	一,一〇二	一,二六八	一,〇八七
北米合衆國	四,〇六八	六,三三五	五,六〇三	六,二四一	七,〇四〇	五,二五七	四,九一七
其他	四六九	七八	二〇九	四一〇	四七五	四九〇	一六二三

總額	昭和四年	同三年	同二年	同元年	大正十四年	同十三年	同元年
關東州	六四,五四一	五八,三三六	六五,八四〇	六二,〇〇八	五,四八九	四六,四二四	一九,三〇七
中華民國	二,二四一	二,一三七	四,五三一	二,〇三三	二,一〇五	一,〇六三	一,二五八
佛領印度支那	二九,五七三	二七,〇八五	三三,九二八	二七,二二七	三〇,五七二	二六,三三七	六,七六七
蘭領印度	二,八六二	一,六〇四	九二六	六八九	二二九	一四八	三三九
暹羅	一,五四一	二,〇七八	二,八八四	四,一一〇	三,四四八	三,〇三三	三〇七
英領印度	一,〇〇〇	一,四三八	二,五五八	一,七二六	七二七	四六五	一〇三
佛領印度支那	九,四三三	五,〇〇一	一五,一六五	一〇,五七三	三,八五三	二,七〇六	二,一七三



海峽植民地及英領ボルネオ	200	375	499	429	238	268	56
英領太刺利	743	21	478	805	506	1,175	63
波 斯	1,084	452	481	687	2,214	1,346	1,435
獨 逸	6,644	9,726	6,803	5,596	1,732	6,744	1,072
英 吉 利	3,938	3,251	3,074	2,705	5,372	2,885	3,490
北米合衆國	3,901	4,105	2,696	2,102	2,218	3,505	1,700
英領アメリカ	3,666	3,099	3,100	794	697	671	1
其 他	1,025	734	2,507	2,543	2,578	2,159	554

### 三五 中華民國、香港及南洋貿易

臺灣の外國貿易中臺灣と最も密接の關係を有する中華民國、香港及南洋との貿易を再檢するに、年に依り多少の相異あるも、現世界狀勢より見るに益々其の重要性を加へつゝあり。即ち昭和四年に就て觀るに、輸出額は二千六百萬圓にして、輸出貿易總額の約七割九分を占め、輸入貿易は四千五百萬圓にして、輸入貿易總額の七割に當れり。

#### 一 輸 出

總 額	昭和四年	同三年	同二年	同元年	大正十四年	同十三年	同元年
中華民國	26,308	25,127	26,206	40,282	27,608	33,861	5,248
香港	17,690	15,301	22,791	29,760	26,377	31,154	4,264
南洋	4,126	5,076	6,083	4,458	5,044	5,766	393
總 額	48,124	45,504	55,080	74,499	59,029	70,781	10,305

本表の南洋とは英領海峽植民地、英領ボルネオ、蘭領印度、比律賓、英領印度、佛領印度支那、暹羅及濠太刺利を謂ふ。以下同じ。

#### 二 輸 入

總 額	昭和四年	同三年	同二年	同元年	大正十四年	同十三年	同元年
中華民國	45,432	37,726	45,590	45,595	39,695	34,206	9,942
香港	29,573	27,085	33,928	27,217	30,572	26,337	6,767
南洋	74	88	103	46	107	72	119
總 額	75,079	64,839	79,621	72,858	70,374	60,615	16,828



中華民國、香港、南洋、對、比、例、總、分、類、百、分、比

同	同	同	昭	同	同	同	同	大
四	三	二	和	同	同	同	同	正
年	年	年	元	十	十	十	十	十
年	年	年	年	四	三	二	一	年
輸	輸	輸	輸	輸	輸	輸	輸	輸
輸	輸	輸	輸	輸	輸	輸	輸	輸
入	入	入	入	入	入	入	入	入
出	出	出	出	出	出	出	出	出
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
六五二	六七三	七〇九	七三八	七〇一	七〇四	七五三	七六五	六八八
〇二	〇二	〇二	〇一	〇三	〇二	〇四	〇三	〇四
三四七	二八〇	四九五	四〇二	三六五	三七八	二七九	二五八	三六八

外國貿易總額、對、比、例、總、額

同	同	同	昭	同	同	同	同	大
四	三	二	和	同	同	同	同	正
年	年	年	元	十	十	十	十	十
年	年	年	年	四	三	二	一	年
輸	輸	輸	輸	輸	輸	輸	輸	輸
輸	輸	輸	輸	輸	輸	輸	輸	輸
入	入	入	入	入	入	入	入	入
出	出	出	出	出	出	出	出	出
七〇四	七九三	六四七	七三二	七八三	七八四	七三五	七三二	七九七
四五八	五三三	四四二	四三六	四三六	四三六	四三六	四三六	三九〇
〇一	〇二	〇二	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇三
二四六	一八一	三四二	二九六	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二七三

南洋 一五七三 一〇、五三 三、五九 一八三二 九〇六 七八七 三〇五六

三比例

總額 中華民國 香港 南洋



三六 重要品別外國貿易

臺灣の外國貿易中輸出品の主要なるものは、茶、石炭、砂糖、樟腦、酒精等なり。今昭和四年に就て之を觀るに、茶は九百四十萬圓を以て第一位を占め、石炭の三百三十萬圓、酒精の二百五十萬圓、樟腦の百七十萬圓、鹽鱈の百五十萬圓等順次之に亞ぐ。

次に輸入品の主要なるものは、豆油粕、米、杉材、硫酸アンモニウム、ガンニ一囊、石油、大豆等にして、昭和四年には豆油粕の一千二百八十萬圓第一位を占め、米の一千萬圓、硫酸アンモニウムの八百四十萬圓、大豆の四百三十萬圓、ガンニ一囊の二百九十萬圓、杉材の二百八十萬圓、石油の百五十萬圓、小麥の百二十萬圓等順次之に亞ぐ。

一輸 出

品名	昭和四年	同三年	同二年	同元年	大正十四年	同十三年	同元年
茶	九三七一	九三二二	二六四五	二三四五	二四七六	一〇、五〇四	六、六七四
砂糖	四五四	一、二五三	二、五五一	三、一七八	五、九〇三	六、〇一四	一、七一九
石炭	三、三〇九	三、九六五	六、一七四	八、四三七	七、四四八	七、三〇五	一、一八
樟腦	一、六五三	三、二二六	一、八九五	一、九四九	三、六〇九	二、六三七	四、五〇〇
鹽鱈	一、四九六	八〇〇	一、六〇七	一、九三八	六三九	一、七七三	—
乾鱈	四八六	四〇六	一、一〇八	五、六五	五三〇	三六〇	—
セメソト	五二〇	六四七	一、〇六四	一、六八九	一、二九九	七九八	—

品名	昭和四年	同三年	同二年	同元年	大正十四年	同十三年	同元年
綿子	一、三五八	一、一六三	九三二	一、三〇四	—	—	—
苧麻	二、三〇	三二四	四九六	四九九	四九七	四五二	三七九
酒精	二、五二六	二、一〇〇	一、八五五	二、〇〇一	一、九八七	一、六二二	二四
錫	六七四	四九二	二、一七九	一、九二八	二、四六六	一、五八九	四五

二輸 入

品名	昭和四年	同三年	同二年	同元年	大正十四年	同十三年	同元年
豆油	二、七五六	二、三三六	二、二九〇	一、三、七四四	一、六、七七八	二、六八四	一、九二七
砂糖	二、四八	一、二五二	三、五八〇	五、三〇四	四、五八五	三、八三八	一、四八
阿片	一、〇八二	四、五三	八三七	九八七	二、八一七	一、三六九	三、〇九四
米	一、〇、二八三	五、〇〇〇	一、五、四七七	九、二七五	一、五三七	六二四	一、一五四
石油	一、四八五	一、二三〇	一、三九五	一、一〇七	一、三〇八	一、四三四	七五六
包蓆	六九〇	五二四	五九七	八九八	一、二三四	一、五二六	四九七
大豆	四、三六三	三、六〇七	二、六二一	三、二二八	三、三三五	二、九〇四	二、四六
杉材及杉板	二、七九	二、八六四	二、五五九	二、二三七	一、五七七	二、二五六	五、六四
小麥	一、三二一	九〇六	九四四	一、〇〇五	九八八	一、四四七	—
硫酸アンモ	八、四三九	一、一、四〇七	八、六六七	六、八〇四	五、四七七	一、八二五	—
ニウム(粗製)	—	—	—	—	—	—	—
ガンニ一囊(故共)	二、八八四	二、〇五一	二、四一一	二、四八六	二、七九五	一、七六四	一〇〇



### 三七 重要品別内地貿易

臺灣の内地貿易中移出品の主要なるものは、砂糖、米、バナナ、樟腦、樟腦油、鳳梨罐詰、檜材、酒精、鯉節等なり。今昭和四年に就て之を觀るに、砂糖は一億四千三百萬圓を以て第一位を占め、米の四千九百萬圓、バナナの八百四十萬圓、鳳梨罐詰の四百四十萬圓、鑛の三百八十萬圓、酒精の三百五十萬圓、樟腦油の三百萬圓、樟腦の二百六十萬圓、鮮魚介の二百十萬圓、模造バナマ帽の二百萬圓等順次之に亞く。

次に移入品の主要なるものは、綿織及絹織布、肥料、鐵、酒類、鹽鱈、杉材及杉板、紙、小麥粉等にして、昭和四年には綿織及絹織布の千六百八十萬圓第一位を占め、鐵の九百萬圓、杉材及杉板の三百六十萬圓、紙の三百六十萬圓、小麥粉の三百十萬圓、鹽鱈の三百萬圓、麥酒の二百七十萬圓、紙卷煙草の二百六十萬圓、清酒の二百二十萬圓、毛織物の二百萬圓等順次之に亞く。

#### 一 移出

品名	昭和四年	同三年	同二年	同元年	大正十四年	同十三年	同元年
砂	1,436,032	1,311,414	96,431	98,376	1,056,511	1,199,911	281,334
米	4,932,111	5,313,391	678,886	630,092	711,110	484,886	1,012,571
酒精	3,505	3,602	3,616	4,081	3,855	3,040	1,579
樟腦	263	1,572	1,078	1,682	915	3,891	1,008



樟腦油	3,040	1,757	1,887	2,976	2,468	2,106	1,561
鮮魚介	3,821	1,971	1,510	1,574	839	1,094	631
バナナ	2,126	1,639	1,334	791	541	430	
切乾薯	8,419	8,625	8,626	10,900	9,096	11,826	337
檜材及檜板	4,455	1,596	1,971	660	1,921	1,368	5
模造バナマ帽	1,924	1,556	2,406	2,633	2,236	1,345	5
食鹽	2,024	1,741	1,088	1,788	1,397	910	
鯉節	709	646	602	904	1,240	1,669	37
石炭	1,571	1,721	1,572	1,818	1,332	1,890	19
鳳梨罐詰	3,877	909	1,484	1,473	1,901	2,035	
鳳梨	4,008	2,604	3,146	1,752	1,928	1,351	32

二 移入

綿織及絹織布	1,687	1,507	1,493	1,986	1,578	792	5,026
鐵(各種)	9,164	8,696	8,226	6,224	6,129	4,897	1,880
清酒	2,339	2,162	1,628	1,657	1,999	1,944	1,354
麥酒	2,687	3,035	2,383	2,321	1,872	1,561	468
鰺	1,198	1,485	2,031	2,765	3,574	1,909	580

過磷酸肥料	1,639	1,809	1,825	1,649	1,807	1,387	
硫酸アンモニウム	1,815	1,064	1,191	1,523	2,891	2,854	
鹽鱒	3,032	1,889	2,103	2,196	2,224	2,493	1,818
陶磁器	1,185	1,179	1,080	963	734	627	326
煎子	1,781	1,450	1,154	1,618	1,540	1,266	633
杉材及杉板	3,609	2,641	2,452	2,264	1,325	1,257	2,409
紙卷煙草	2,589	2,543	2,080	2,124	1,754	1,679	560
調合肥料	929	1,094	671	1,015	1,608	2,389	
ガンニ、糞及	890	1,319	1,483	1,015	1,608	1,637	215
黃麻	1,378	1,478	1,296	1,095	2,764	1,637	
燐寸	1,378	1,478	1,296	1,095	2,764	1,637	
紙	3,567	3,237	2,990	3,066	3,422	2,388	482
小麥粉	3,126	2,985	2,984	3,440	3,936	2,484	838
綿絲	1,521	1,257	1,319	1,642	1,670	882	1,690
毛織物	2,006	1,368	1,211	1,344	1,019	679	347
メリヤス肌衣(各種)	1,418	1,203	1,787	1,509	1,665	840	194
砂糖	855	1,245	1,227	1,190	990	1,327	879
砂	1,786	1,782	1,302	955	780	255	375
松材及松板							



三八 港別貿易

昭和四年に於ける臺灣の輸移出入貿易總額は四億八千萬圓にして之を港別に觀るに、基隆の二億四千萬圓第一位を占め、總額の五割に當り、高雄の二億圓之に亞ぎ四割二分を占め、安平の一千三百萬圓、淡水の四百萬圓を始め殘餘の諸港は之を合算するも尙僅かに總額の七分を占むるに過ぎず。

今之を内地其の他の諸港と比較するに、基隆は神戸、横濱、大阪、大連に亞ぎ第五位を占め大連と釜山との中間に、高雄は第七位を占め仁川の上位にあり。更に安平は平壤と新潟との中間に、淡水は博多と那覇との中間に位す。

港名	總額 (千圓)	輸出 (千圓)	輸入 (千圓)
神戶	一、五八四、三三四	七〇一、八九三	八八二、三三二
横濱	一、三六四、三二七	七八一、八五七	五八二、四六〇
大連	七六二、二六五	四四四、九四九	三二七、三二六
大坂	六六五、三四九	三六九、六一一	二九五、七三八
釜山	二四〇、二一九	一一〇、八九九	一三九、三三〇
基隆	二四〇、〇九六	一〇九、七〇九	一三〇、三八七
高雄	二〇三、七四二	一四五、六〇三	五八一、三三九
仁川	一三〇、七六六	四七、四七六	八三、二九〇
平壤	二〇、三三三	四、九四七	一五、三八六

新安 博多 淡水 那覇

平瀨 多摩 水戸 那覇

新安	二、三五一	六二四	一、一九六七
博多	二、二五四	五三	二、二〇三
淡水	六、一九六	五九四	五、六〇二
那覇	四、二六九	八五四	三、三二五
平瀨	二、八二七	三三	二、七八五

臺灣及朝鮮の輸出中には移出を、輸入中には移入を含む。  
 朝鮮、關東州は同應統計書に依る。  
 北海道、内地府縣は帝國統計年鑑に依る。







四〇 專 賣

臺灣の專賣は現在、阿片、食鹽、樟腦、煙草及酒の五種なるが、就中酒は大正十一年七月以降の實施とす。最近十八年間に於ける賣渡價額を觀るに、大正元年度に一千七百萬圓なりしが、大正六年度には二千萬圓を超ゆるに至り、更に大正九年度には三千萬圓を突破したるも、同十年度には經濟界の世界的不況に伴ひ、樟腦の如きは特に前年度の一千萬圓より五百萬圓に激減したる爲、總額に於て二千五百萬圓に低下せしが、大正十一年度には稍や景況を回復したると、酒專賣實施の結果總額三千四百萬圓に達し、大正十二年度には四千萬圓を突破し、大正十四年度には四十五萬圓に増加せり。

最近人造樟腦の需用旺盛となり是が對策上樟腦に關する事項は一般に公表せざるに依り、昭和元年度以後の賣渡總價額には樟腦に關するものを控除せる爲、大正十四年度に比し著しく減額せるも、各種類別に之を觀れば阿片烟膏を除く外は概ね増收の趨勢に在り。

大正元年度	一七、〇九六、九一一	阿片烟膏	六〇、二七、八三八	食鹽	七四七、九三三
同 二年度	一六、四九七、五〇〇		五、八六六、四〇〇		八〇八、九一二
同 三年度	一六、三六一、八三二		五、六八三、八六四		八九六、四六九
同 四年度	一六、五一一、七三四		五、八〇〇、七三四		八七三、九七八
同 五年度	一九、五九七、九一一		六、五九〇、一五三		九五二、九三五
同 六年度	二一、〇三六、七〇二		六、九二四、三七七		一一八〇、四六五
賣渡總價額					

同 七年度	二二、六六一、三四五	煙草	七、五五二、三四五	酒	一、〇九三、二〇五
同 八年度	二七、四三三、三六一		七、六一九、四二二		九九九、〇八五
同 九年度	三三、九七三、八三五		七、七〇八、二三五		九九七、七七八
同 十年度	二五、四四二、〇〇六		六、七七二、六一四		一、七五三、六七七
同 十一年度	三四、六五三、五六二		六、二八三、二七七		一、八一〇、三〇七
同 十二年度	四〇、二二七、一五五		五、六四〇、六六五		二、三八二、八三二
同 十三年度	四一、八一四、四九二		五、一八四、〇三六		二、八三八、二八一
同 十四年度	四五、二五六、二二四		四、九二一、六六八		二、四六五、六四九
昭和元年度	三四、九〇九、二五二		四、七二六、五七六		二、一七三、八七六
同 二年度	三六、三六四、八四三		四、三七五、七七四		二、二二五、九四七
同 三年度	三七、七四五、五九七		四、一〇三、一九一		二、〇九一、二七〇
同 四年度	三七、六九六、八五四		三、七五〇、七九六		二、四〇〇、四七四
樟腦及樟腦油					
大正元年度	五、七九七、三〇七	煙	四、五三三、八三四	酒	一〇〇
同 二年度	五、〇八三、〇七九		四、七一九、一〇九		九六
同 三年度	五、二三二、〇五七		四、五四九、四三二		九六
同 四年度	五、一六八、七六三		四、六六八、二六九		九七
同 五年度	六、七三八、五八四		五、三二六、二四九		一一五
同 六年度	七、一九五、一七		五、八一三、四三三		一二三
指數					



同	七年度	七、〇四〇、九九七	六、九七五、八九八	一三三
同	八年度	九、一五三、三〇〇	九、七〇九、五五四	一六〇
同	九年度	一一、八四〇、二九〇	一一、四二七、五三二	一九三
同	十年度	五、二五六、七二六	一一、六五八、九九九	一四九
同	十一年度	九、二七二、九九七	一〇、七四六、二八九	二〇三
同	十二年度	一三、三一四、九八五	一〇、七五五、一四四	二三五
同	十三年度	一一、〇七九、八七二	一一、〇三一、五七〇	二四五
同	十四年度	一一、〇七八、四二七	一二、四五六、一五四	二六五
昭	和元年度	?	一四、〇〇四、五三六	二〇四
同	二年度	?	一四、九九五、六二五	二二三
同	三年度	?	一五、八七二、三五九	二三一
同	四年度	?	一六、二七五、九一六	二三〇

樟腦及樟腦油には副産物を含む。

### 四一 銀行

臺灣に於ける銀行は、昭和四年末現在に依れば行數七（内、日本勸業銀行及三十四銀行は支店）にして、島内に於ける支店及出張所總數六十三、資本金七千八百萬圓（拂込金七千萬圓）、準備金三十三萬圓、純益金百二十萬圓、島内預り金一億四百萬圓、同貸出金二億四千八百萬圓なり。

總數	支島 出張 所店內	公稱 資本金	準備金	純益金	年末現在	
					島内預金	島内貸出金
臺灣銀行	六三	千円 七八、三三三	千円 三三三	千円 一、二二八	千円 一〇四、三三九	千円 二四八、六三二
日本勸業銀行	一四	一五、〇〇〇	—	△ 四七四	三九、八七三	一四〇、一三三
臺灣支店	二	四九、四二二	—	—	二、二六一	五〇、八〇六
華南銀行	一	二五、〇〇〇	—	—	一、六三七	八、六〇八
臺灣商工銀行	二七	五、〇〇〇	—	—	三三、三二二	三三、〇〇七
彰化銀行	一四	四、八〇〇	三〇三	—	一三、三六三	一三、〇〇八
臺灣貯蓄銀行	三	一、〇〇〇	三〇	—	七、七一九	二、五八四
三十四銀行	三	六〇〇	—	—	三三二	一、二四九五
臺灣支店	—	—	—	—	一六、二六四	—

日本勸業銀行支店及三十四銀行支店の資本金は本島各支店に於ける元金を掲ぐ。















帝國大學附屬 農林專門部	1	45	93	21
高等商業學校	1	50	37	67
高等學校	1	50	58	130
師範學校	4	123	120	208
中學	20	333	4597	206
高等女學校	3	233	4939	32
農林學校	2	36	676	188
農業學校	1	14	169	31
工業學校	1	57	643	233
商業學校	2	46	991	206
實業補習學校	3	129	1331	212
小學	134	851	33664	372
公立各種學校	75	564	23334	435
書房	160	267	585	246

學校數(小、公學校は分教場を含む)は年度末現在、教員、學生、生徒(兒童)は三月一日現在なり。教員には兼務者を含む。

### 二 内地其他との初等教育比較

小學校	校數	教員數	兒童數	一校平均兒童	教員一人に付兒童	人口千に付兒童
臺灣	134	851	33664	236.3	37.2	136.6
朝鮮	464	1990	63768	137.4	33.0	130.0
關東	194	964	38529	198.6	40.0	152.1
北海道	52	824	27513	529.1	33.4	135.5
關東	167	972	44920	268.3	46.0	175.7
内地府縣	338	2592	90876	379.1	41.9	154.0
臺灣	75	536	23336	309.5	43.5	55.5
朝鮮	170	938	44355	260.8	49.0	24.9
關東	134	751	29577	220.7	39.4	29.4

公學校に就て觀るに朝鮮は官公私立普通學校、樺太は土人教育所、關東州(州内)は官立公學堂及公立普通學堂の事實なり。臺灣の就學兒童率は小學校に在りては内地人のみを、公學校に在りては本島人及蕃人(平地蕃)に就き算出す。



公學校の關東州に在りては中華民國人のみに就き算出す。  
 臺灣の兒童は昭和五年三月一日現在なり。  
 朝鮮は昭和四年度末(兒童は昭和五年三月一日)現在にして拓務省統計概要に依る。  
 樺太は昭和五年三月一日現在にして拓務省統計概要に依る。  
 關東州(州内、鐵道附屬地、領事館)は昭和四年度末現在にして同應統計書に依る。  
 北海道、内地府縣は昭和二年度末(兒童は昭和三年三月一日)現在にして帝國統計年鑑に依る。

### 四四 衛生機關

臺灣には昭和四年度末現在、官立十三、公立十七、私立九十八、計百二十八の醫院と、一千二百名の醫師(内、齒科醫百八十五名)と、三百八十名の醫生と、一千二百名の産婆を有す。醫師、醫生一人に對する人口は全島平均二千八百四十四人にして、その割合の最も少きは花蓮港廳の二千四十五人最も多きは澎湖廳の七千人なり。

總數	醫院		醫師及醫生		産婆	醫師醫生一人に付人口
	官立	公立	總數	醫師		
臺北州	四	七	一、五九九	二八五	一、三二五	二、八四四
新竹州	一	六	三三〇	二六四	二二六	二、八三八
臺中州	一	一	二五三	一〇六	七三	二、六〇九
臺南州	二	二	三三三	二四九	一四九	二、九五六
高雄州	二	四	四〇一	三三六	四七九	二、八五六
臺東廳	一	三	二〇三	一七〇	二四四	二、九〇四
花蓮港廳	一	一	一七	一七	七	二、七二一
澎湖廳	一	一	三四	三四	一五	二、〇四五
總數	一三	一七	一、五九九	二八五	一、三二五	二、八四四
私立	九	九	三三〇	二六四	二二六	二、八三八

醫生とは明治三十四年府令第四十七號臺灣醫生免許規則に依り免許を得て其の管轄



内に於て醫師を業と爲す者を謂ふ。  
本表の外藥劑師百十二名、藥種商二千九百六十四名有り。

### 四五 水道

臺灣に於ける既設水道(簡易水道を含む)の總數は、陸軍省所管パロン、玉里(但し玉里庄へ給水の分は表中に含む)、卑南及總督府所管恒春種畜支所等消費水量不明のものを除き昭和四年末には七十箇所、年末現在給水戸數專用栓三萬八千九百六十六戸、共用栓戸數二萬七千七百六十四戸にして其の消費水量は消費水量不明のものを除き、(臺東、花蓮港兩三廳下に於ける水量の大多數は簡易水道にして其の消費水量は不明なり)計量供給一千六百十萬立方米、放任供給一千七百二十萬立方米なり。

年末現在

年中消費水量(立方米)

總數	水道數		總數	計量供給	放任供給
	專用栓數	共用栓數			
臺北州	三	二七、七六四	三三、四八四、六四三	一六、二九二、九九一	一七、一九一、六五二
新竹州	四	二、六五〇	一三、八七五、二九五	一一、一〇一、一五三	一、七七四、一〇二
臺中州	二	九六五	四六、一〇三	八〇、五九二	三八〇、四三〇
臺南州	五	二、八四〇	六、二六三、三二〇	四七、九六三	五、七八三、六七八
高雄州	六	四、九〇七	七、二六二、二四五	一七〇、一六一	五、四二五、〇八四
臺東廳	一	二、三四〇	五、〇六七、〇九三	一七九、六七一	三、二七〇、六三三
花蓮港廳	一	一、六六七	?	—	?
總數	七〇	二、三九五	六九一、六七八	一三三、九八二	五五七、六九六



年中消費水量の新竹州は新竹水道、臺東廳は臺東水道、花蓮港廳は花蓮港水道のみ  
の事實なり。

### 四六 ペストとマラリア

臺灣は一般に不健康地の如く解せらるゝも、衛生設備の完成と衛生思想の普及と共に、  
近年其の面目を一新し、ペストの如き大正七年以來全く之れが發生を見ず。又マラリアの  
如きも其の死亡數は年に依りて増減ありと雖も、一般に減退の傾向を示し、明治三十九年  
に於て人口萬に付死亡數三十四人三分なりしものが、昭和四年には九人に減退し、其の實  
數に於ても同年間に六割二分を減じたり。

年	死亡實數		指數		人口萬に付死亡	
	ペスト	マラリア	ペスト	マラリア	ペスト	マラリア
明治三十九年	二、五三四	一〇、五六二	一〇〇	一〇〇	八二	三四三
同 四十年	二、四四八	一一、七一五	九七	一一一	七九	三七七
同 四十一年	一、〇六四	一一、七四〇	四三	一一一	三四	三七五
同 四十二年	八、五四	一〇、三三三	三四	九八	二七	三三六
同 四十三年	二、五	九、一〇四	一	六	〇・一	二八三
同 四十四年	三、六一	七、九四九	一四	七五	一・一	二四二
大正元年	一、八七	六、九〇九	七	六五	〇・六	二〇六
同 二年	一、二三	六、五七二	五	六三	〇・四	一九二
同 三年	四、九四	八、八八五	一九	八四	一・四	二五六
同 四年	六、四	一三、三五〇	三	二六	〇・二	三八三







同十二年	三九、四六三	三三、九六五	五、四九八	四三	三九	〇六
同十三年	三六、六七七	三一、四九一	五、一三六	四二	三六	〇六
同十四年	三三、七五五	二九、〇〇一	四、七五四	三九	二八	〇五
昭和元年	三一、四三四	二六、九八三	四、四五一	三六	二六	〇五
同二年	二九、〇四三	二四、九二二	四、一三二	三三	二四	〇四
同三年	二六、九四二	二三、〇九一	三、八五一	三一	二二	〇四
同四年	二四、六二六	二一、〇五七	三、五六九	二八	二〇	〇四
同五年	二三、二七七	一九、三九五	三、八四二	二七	一九	〇四

本表は各年十二月末日現在にして本島人のみの事實なり。

### 四八 鐵道

臺灣の鐵道は、昭和四年度末には官設鐵道(阿里山及羅東森林鐵道を含む)の營業哩數六百二十哩に達し、外に私設鐵道一千四百哩を有す。私設鐵道は主として製糖會社の經營する所にして内、營業線は三百餘哩なり。

今之を内地其他と比較するに、百方に付鐵道營業線の哩數は、關東州の二百八十四哩最も多く、我臺灣の七十八哩之に亞ぎ、樺太の十三哩最も少し。更に人口萬に付哩數は樺太の十二哩最も多く、朝鮮は一哩にして最も少く、臺灣は二哩二分を以て内地の上に在り。

#### 營業線路延長

	總數	官設	私設	百方に付	人口萬に付
臺灣	九六五哩	六三〇哩	三四五哩	七五哩	二三哩
朝鮮	二二三〇	一七二〇	五二〇	一五五	二二
樺太	三〇〇	一八二	一八	二三八	二九
關東州	六八九	—	六八九	二八三九	七八
内地道府縣	二、一八五	八、四九五	三、六九〇	四九二	一九

朝鮮、樺太、關東州は昭和四年度末現在にして同應統計書に依る。



内地道府縣は昭和三年度に現在の開業線哩にして帝國統計年鑑に依る。人口萬に付哩數は内地道府縣昭和四年十月一日推計人口に依り算出せり。臺灣の營業線路延長の百方に里に付哩數及人口萬に付哩數は孰れも蕃地の事實を含まず。

### 四九 郵便、電信、電話

臺灣に於ける郵便、電信、電話の現況を觀るに、昭和四年度に於て通常郵便は引受六千六百三十萬、配達七千七百萬、電信は發信及著信各百五十萬、爲替は振出二千九百八十萬圓、拂渡千七百六十萬圓、貯金預入一千七百萬圓、拂戻一千四百萬圓、貯金現在一千五百萬圓、振替貯金口座受入九千三百萬圓、拂出九千三百萬圓、現在六十五萬圓なり。又同年度末現在電話加入者數は一萬二千、年度中加入者發信通話度數は五千八百萬なり。今之を内地其の他と比較するに、人口十に對する割合は通常郵便引受、電報發信、爲替振出及貯金預入を通じて最多數を示すは樺太にして、貯金預入を除いては、朝鮮最少數を示す。又人口十に付電話加入者數の最も多きは關東州、最も少きは朝鮮にして、同加入者一に付通話度數の最も多きは關東州、最も少きは内地道府縣なり。

#### 一 郵便、電信、爲替、貯金及電話

通常郵便	引配	人口十に對する	受達	六、三四、五三
電信	引配	人口十に對する	受達	六、八七、二九六
電信	發著	人口十に對する	信信	一、四八、七
電信	發著	人口十に對する	信信	一、五三、二二
電信	發著	人口十に對する	信信	一、五二、八五〇
電信	發著	人口十に對する	信信	三、四



電 話	振替貯金			貯 金			爲 替					
	年 度 未 現 在	年 度 中 加 入 者 數	年 度 通 話 者 數	現 在	現 在	現 在	預 算	預 算	預 算	振 入	振 入	振 入
付 通 話 者 一 數	加 入 者 一 數	加 入 者 一 數	加 入 者 一 數	現 在	現 在	現 在	預 算	預 算	預 算	振 入	振 入	振 入
四、七九七	二七	五八、一四四、四九二	二、一三三	九二、九〇八、八九九	九三、八三九、二六〇	六五、四、八九九	一五、〇六三、九三〇	三、八、五	一七、一九三、六二五	一四、五〇二、一六三	一五、〇六三、九三〇	二九、七九一、〇五一

二 内地其の他との比較 (昭和四年度)

電 話	人口十に對する			人口千に付		
	通 常 郵 便 引 受	電 報 發 信	爲 替 振 出	預 貯 金 入 金	加 入 者 數	加 入 者 一 に 付 通 話 者 數
臺灣	一四八七	三四	六六八	三六五	二七	四、七九七
朝鮮	一、二四、四	三一	五七四	三九七	一六	五、五七七
樺太	九、九四、一	五五二	一、一〇八、六	四、四二、二	二〇一	四、六三三
關東州	六、四三、三	二、四四	二、五、四	二、五九九	二二七	八、五〇六
北海道	七、九七、五	二、三三	一、五、七	二、五七六	一〇四	四、五五七
内地府縣	七、五五、三	二、〇一	一、五、七	二、〇六	一〇四	四、五五七

朝鮮、樺太、關東州(州内、鐵道附屬地)は拓務省統計概要並に同廳統計書に依る。北海道、内地府縣は昭和三年度の事實にして帝國統計年鑑に依る。



五〇 警察官署及職員

臺灣の地方警察機關數は昭和四年末現在に依れば、州警務部五、廳警務課三、警察署六、郡警察課四十五、支廳十、派出所及駐在所千五百十にして、同職員の數は警視二十人、警部及警部補五百十二人、巡查七千二百六十六人なり。

今之を内地其の他と比較するに、一方里に對する巡查の數は、關東州の十一人最も多く、臺灣は三人を以て之に亞ぎ、巡查一人に付人口は北海道の千二百九十九人第一位を占め、朝鮮の千二十八人、内地府縣の千百十二人、臺灣の六百三十八人、樺太の六百三十七人、關東州の三百四十八人等順次に亞ぐ。

警察署	警察分署	派出所及駐在所	職員		一方里に付巡查人口
			警視	警部及警部補	
臺灣	六	一五〇	二〇	五三	七一六
朝鮮	二五〇	二四九	六〇	一、二六〇	一、八八二
樺太	三	六	三	二九	三九六
關東	三	三	二	一四	二、五四二
北海道	六	八三	六	一九四	二、〇四
内地府縣	一、二四	一、八一九	三〇四	四、九〇八	五、四七七
本表巡查一人に付人口中臺灣の分は蕃地居住の蕃人を算入して算出す。					二九
					一、二二







鑛產	四,四八二,五六二圓	一五〇九〇,六一三圓	三三七
水產	二,二五〇,六八七圓	二,三三八,〇三四圓	九九二
工業	五二,〇二八,九一五圓	二,四六,九六八,八〇圓	四七五
糖業	甘蔗收穫面積	七五,三三九甲	一四五
製糖	二四九,三九九,七七九斤	一,三五〇,八〇五,八八六斤	五四二
貿易	總額	一〇九,三九七甲	
外貿	一二五,四三四,〇九五圓	四七六,八〇三,九五〇圓	三八一
內貿	三四,二六七,三五四圓	九七,七二八,九八九圓	二八五
財政	九一,二五六,七四二圓	三七九,〇七四,九六一圓	四〇一
歲入	六〇,二九五,八五八圓	一五〇,二四〇,六〇七圓	二五〇
歲出	四七,一八八,五七六圓	一三二,二九五,三三六圓	二五七
專賣	一七,〇九六,九二圓	三七,六六六,八五四圓	二二〇
總額			

(昭和五年期)

阿片賣渡價額	六,〇二七,八三八圓	三七五〇,七九六圓	三二
食鹽賣渡價額	七四七,九三三圓	二,四〇〇,四七四圓	三三〇
樟腦及樟腦油賣渡價額	五七九七,三〇七圓	?	?
煙草賣渡價額	四,五三三,八三四圓	一六,二七五,九一六圓	三六〇
酒賣渡價額	—	一五,二六九,六八八圓	—
教育			
小學校兒童	八,九八〇	三一,六六四	三五二
公學校兒童	五一,五四〇	二,三三三,三四六	四三三
中等學校生徒	一,〇〇七	九,五二六	九五〇
實業學校生徒	五八	三,八〇〇	六,五五二
師範學校生徒	五三一	一,二一〇	二二〇
專門學校生徒	二二〇	七七八	三七〇
高等學校生徒	—	五九八	—
大學學生	—	一一三	—
鐵道			



官設鐵道線路延長	三〇三哩	六二〇哩	二九五
運輸 { 乘客賃金	二,三三五,八九四圓	八四三,二〇四圓	三七九
收入 { 貨物賃金	二,五四八,〇三四圓	三,〇四六,九九九圓	四七三
私設鐵道線路延長	八〇八哩	一,三五八哩	一六八
郵便、電信及電話			
通常郵便引受通數	三〇,五七五,二二四	六六,三四四,五四三	二二七
電報發信通數	九〇三,三六二	一,五三三,二二二	一六八
爲替振出金額	一四,三九七,〇四五圓	二九,七九二,〇五二圓	二〇七
貯金預入金額	三,一九六,二四三圓	一七,一九三,六三五圓	五三八
電話 { 年度末現在	三七五八	三三,三三三	三三三
加 { 年度末現在			
通話 { 年度末現在	一七,六三四,六二〇	五八,一四四,四九二	三三〇















昭和六年九月十八日印刷  
昭和六年九月二十日發行

臺灣總督府

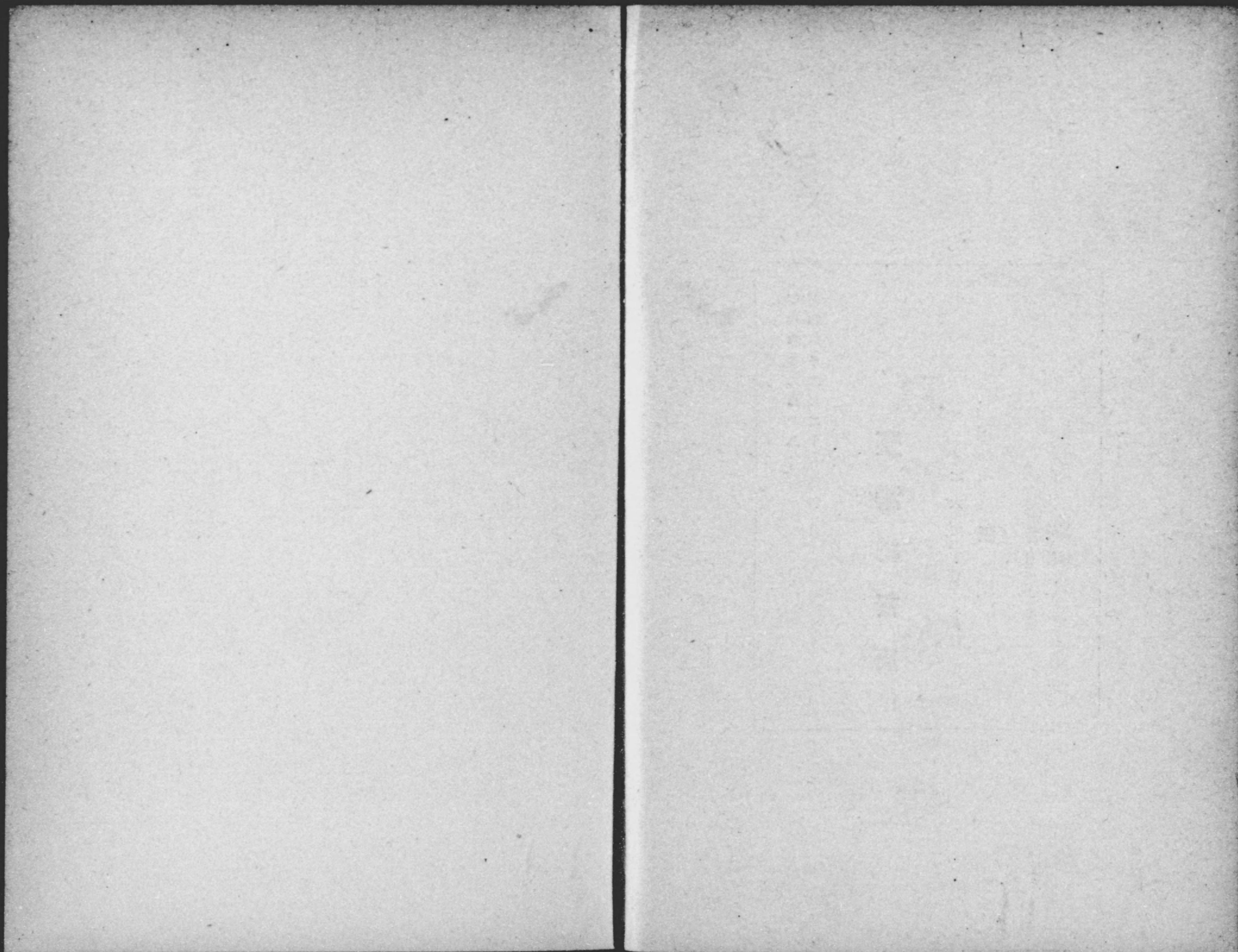
臺北市大正町二丁目三十七番地

印刷人 額川 首

臺北市榮町四丁目三十二番地

印刷所 臺灣日日新報社







516  
357



